

平成25年度高松市芸術士派遣事業活動報告

芸術士とこどもたち

P01	タイトル	P34-35	若葉保育園／永島 香苗
P02-03	目次	P36-37	みのり保育園／美濃 花織
P04-05	ご挨拶	P38-39	川東保育所／美濃 花織
P06-07	高松市芸術士派遣事業とは	P40-41	大野東保育所／池田 早智
P08-09	西光寺保育所／北村 きよ	P42-43	国分寺南部保育所／池田 早智
P10-11	こぶし花園保育園／北村 きよ	P44-45	木太保育所／片岡 明日香
P12-13	カナン十河保育園／北村 きよ	P46-47	浅野幼稚園／片岡 明日香
P14-15	西春日保育所／阿部 麻海	P48-49	香南こども園／カタタ チサト
P16-17	塩江こども園／阿部 麻海	P50-51	三溪幼稚園／三好 智子
P18-19	木太幼稚園／村井 知之・北村 きよ・阿部 麻海	P52-53	檀紙幼稚園／平川 めぐみ
P20-21	国分寺北部保育所／村井 知之	P54-55	大野幼稚園／松尾 由美
P22-23	松島保育所／村井 知之	P56-57	和光保育園／松尾 由美
P24-25	今里保育所／村井 知之	P58-69	香西保育所／松野 礼子
P26-27	敬愛保育園／樫本 美千子	P60-61	川添保育園／松野 礼子
P28-29	下笠居西部保育所／樫本 美千子	P62-63	保育所・幼稚園・こども園の先生に聞きました！ 「芸術士活動を一言であらわすと？」
P30-31	すみれ保育園／白澤 知里	P64	平成 25 年度参加施設・参加芸術士
P32-33	城東保育園／谷 由貴		





平成 21 年 11 月に高松市でスタートした「保育所・幼稚園への芸術士派遣事業」は、自治体が独自に取り組む保育支援の事例としては全国で初の試みでございます。保護者や関係者の皆様の御理解の下、本年で5年目を迎え、現在、27 か所の施設で実施されております。

芸術士の方々には、子どもたちとふれあう中で、これまで培われた経験を生かし、保育士や幼稚園教諭とは異なる感性を存分に発揮していただき、子どもたちが自由に表現する手助けを行うとともに、個性や創造力を伸ばしていけるよう、専門性を生かしたかかわりや助言などを行っていただいております。

本市におきましては、昨年10月に、産業、ものづくり、観光、文化・スポーツ、国際交流などに関する施策を一体的に推進し、本市の都市ブランドイメージの向上を積極的かつ効果的に図りながら、「瀬戸の都・高松」の魅力を全世界に発信していくため、総合的かつ基本的な指針となる「高松市創造都市推進ビジョン」を策定いたしました。

このビジョンの中で、「クリエイティブ・チルドレン・プロジェクト」と題し、家庭のみならず、地域コミュニティや学校などが一体となって子どもたちを育てることで、創造性を発揮できる子どもに育てていくことを目標に、様々な施策に取り組むこととしておりまして、芸術士派遣事業はその核となる重要な事業と位置付けております。

アート・シティとして飛躍していこうとしている高松におきまして、若いアーティストが、未来を担う子どもたちに芸術に触れる機会を提供し、ともに創作活動に励むことは大変意義深く、感性や創造力豊かな人材育成にも繋がるものと、大いに期待しております。

次代の高松を担う子どもたちが自由に表現活動をし、自己肯定感を持つことにより、のびのびと健やかに成長していくため、今後とも、この取組をあたたく見守っていただきますよう、よろしくお願いたします。





静かな波の音が奏でる瀬戸内の島に通ったり、十五夜の月にウサギを探したりする時、ふっと、子どもの頃の懐かしい記憶を思い出したりしませんか。私たちの普段何気なく過ごす日常の中、ともすれば忘れがちな記憶のペールを、波の音や月の光は氷山の奥の結晶を発見するように剥ぎつつ、ウキウキするような心の色彩に変換してくれたりします。それはもしかしたら、子どもの頃に起こった砂浜でのお絵描きや障子越しの影絵の思い出の残り火かもしれません。

三つ子の魂百までとは言いますが、就学前の子どもたちの心は無限大の宇宙のようです。どんな芸術家もかなわない未知の結晶でもあります。そんなひとときの魂の小宇宙に、アートはどんな可能性を見つけることができるでしょうか？ 人類は、遙か昔、壁画に日常の出来事のシーンを記しました。強要されたものでないノビノビしたダイナミックな表現は、三万年前に描かれたものとは思えない、今にも動き出しそうな生きる営みを感じさせてくれます。子どもたちは三万年の人類の魂を持った結晶なのではないでしょうか？ 先祖様のそのままご先祖様のそのまま。描こうとする無垢な眼は、表現する、伝えるという永遠の遺伝子の発露なのかもしれません。そんな発露のほんの小さなお役に立てればと言う想いで、ちょっぴり表現の先輩たるアーティストのお兄さんやお姉さんが、そばにいる（寄り添う）という事を始めました。

保育所・幼稚園・こども園への芸術士派遣事業は、すでに5年を経ることで、ある種の確かな手応えが、回りの大人に伝わり始めています。子どもたちが変化することで、大人が気づき始める。そう、各々が記憶のペールを脱ぎ始めるのです。アートは、そんな原点回帰の処方箋なのです。

高松市は創造都市を目指し、これからの未来への投資に、子どもたちとアーティストの接点という、一見極めて遠回りするような事業を、一つの道標にしてくださいました。でも、これは子どもたちだけのことではありません。私たち周辺の大人達の記憶のペールと一緒に探ろうという、壮大な社会実験なのかもしれません。

誰しもが、さざ波の音を聞き、月明かりを観る事ができるように、子どもたちの心の眼に希望の灯が見えますように。

様々な芸術分野に高い知識を有する「芸術士」が、保育所や幼稚園・こども園で生活を共にしながら、子どもたちの興味や芸術表現をサポートするアートな保育が、2009年秋より始まっています。市内の保育所・幼稚園・こども園27か所(2013年度)で展開するこの事業は、自治体が独自に取り組む保育支援の事例としては初めての試みです。

多くの子どもたちが共に過ごす保育所・幼稚園・こども園を舞台に、彼らの感性と創造力の芽を見つめ育む環境を整備すべく、アートを通じた活動経験を有する「芸術士」が週1日ペースで各施設に派遣され、単発のワークショップや発表会に向けた制作ではなく、年間を通して保育に参加し、子どもの日常をアートの目線から“見守る”という関わり方をします。

春に種をまいた藍を収穫しての叩き染めでは、植物の匂いや染まる色、夏の終わりの風を五感で感じる子どものつぶやきが生まれ、画用紙に空いた穴から広がる想像は、夜に落ちた雷や、お腹を空かせた虫など、子ども一人一人の世界となります。保育園の片隅に置かれていた古い椅子は、子どもたちの手によって新しく生まれ変わり、キャサリンという愛着のある名前も付けられました。

各施設で展開される芸術士活動は、あらかじめゴールが設定されているという訳ではありません。同時多発的に始まる様々なプロジェクトが終わり、また新しいプロジェクトがスタートする。ひとつとして同じものは無く、また同じ結果は存在し得ません。定式化されず、子ども・芸術士・保育士・幼稚園教諭が共に素材やテーマから学び・発見し、どこに行き着くかを知らない開放性は、時に私たちに困難さを与えます。「この事業は、どこにねらいがあるのですか?」と必ず聞かれますが、この不確かな状態が、活動を一層面白いものにし、何より私たちの想定を超える出来事の数々がそれを裏付けています。

本事業は、結果ではなく、過程を大切にします。活動の中で、子どもたちが思い思いに感じ表現するとき、子どもは独自の心を持っていることが分かります。その一人一人の行為や言葉はドキュメントとなり、芸術士と子どもたちが一緒に答えを探した経過として記録されます。

芸術士は、普段の保育の中では見たことのないようなもの、したことのない体験、考えたことのないこととの出会いを提供し、子どもたちの可能性を狭めることなく、彼らの自由な発想と創造力を最大限に引き出す環境をつくります。また、アートに正解がないように、ある問いについて返ってくる彼らの答えはひとつとして同じものはありません。子どもたちの自由な発想を芸術士が見守り・支え、その表現したことを褒め・認めることもまた、大切な環境の要素のひとつです。

芸術士は、感性と創造性の可能性を実体験として理解しているアートに通じた人であり、子どもと大人の境界を越えて共に交わるコミュニケーション能力が求められます。2013年度は、27施設を舞台に活動しており、絵画、彫刻、漆芸、染織、身体表現などその専門はさまざまです。そして、これまでの実践の中から、次の4つのミッションが言葉となり共有されています。

[子どもたちと社会を繋ぐ] 活動ドキュメントの制作。

[結果を求めない] 過程を重視。

[子どもたちのサポーター] 自ら考え、工夫し、伝える力を引き出す。

[子どもたちの“こころ”と“ちから”を大切に] 探求心、想像力、創造力を引き出す。

毎年の活動報告展の開催・冊子の発行のほか、2010年7月には瀬戸内国際芸術祭うみあかりプロジェクトへの参加、2011年7月には高松琴平電気鉄道とのタイアップ・スタンプラリー企画など、子どもたちと地域を繋ぐ役割にも取り組んでいます。アートを媒体としたこのプロジェクトが、これから社会を担っていく未来の子どもたちを豊かに育む力となっていくものと考えています。

【これまでの活動】

2009年11月

高松市内の保育所への派遣がスタート。

2010年7月

瀬戸内国際芸術祭2010うみあかりプロジェクト「キッズアクアガーデン」

2010年8月

第1回芸術士派遣事業活動報告展『芸術士のいる保育所』。ドキュメントパネルの展示。

2011年7月

高松琴平電気鉄道(株)100周年を記念したタイアップ企画として、保育所の子どもたちと芸術士との関わりから生まれた作品とオリジナルスタンプを13の駅舎に展示・設置。作品を觀賞しながら色んな駅をめぐるスタンプラリーは大好評!

2011年3月

第2回芸術士派遣事業活動報告展『芸術士のいる保育所』。沢山のカラー写真パネル、子どもたちと制作した実物作品、活動風景の映像、扉の仕掛けなど、体験型の展示。

2012年4月

芸術士の派遣先は、保育所・幼稚園・こども園へと広がる。

2013年3月

第3回芸術士派遣事業活動報告展『芸術士とこどもたち』。瀬戸内国際芸術祭2013春会期に合わせて開催。

2013年10月

第4回芸術士派遣事業活動報告展『芸術士とこどもたち』。瀬戸内国際芸術祭2013秋会期に合わせて開催。

- ・延べ派遣施設数133施設
- ・年間約2,000人の子どもと関わる。(平成25年度)
- ・初年度、芸術士活動に参加した子どもたちは、小学校4年生。(平成26年3月現在)



ことばのたね

初夏。ある日のできごと。

男の子が自分のつくった色を見て生まれた言葉から、みんなの会話が広がっていきます。(a)

「みて～！ここきらきらしとる これ“ほたる”なんで！」

「“ほたる”ってなんでひかるかしとるよ」「なんでなんで？」

「おかあさんとね、おとうさんがおってね。あかちゃんをまもるためにおとうさんをよんどるんでね」

「みんなかぞくなんでね」「ね～！」

子どもたちの言葉の種の中のひとつは、家族のかたちをしているようです。彼らの世界は、どこかファンタジーの要素も含みつつ、帰る場所＝家族の存在に抱きしめられてできているみたい。部屋中をふわふわと綿毛のように飛び続ける言葉たち。

「きもちいい、きもちいいしてくる」そう言って窓際に走っていく子どもたち。外は雨の様子。そっくと手だけを外にだして雨に触ります。一緒に空の様子もみたりして。どうやら、雨のさわり心地を味わいにいったみたい。(b)

お互いに何か声にすることなく、にこにこ顔を見合わせていました。雨のさわり心地を“きもちいいきもちいいする”と言葉にかえてお話してくれた彼ら。子どもたちと一緒に過ごしていると、この世界をみるその瞳にうれしくなります。

たびびととまほう、それからおうち

部屋の中に入ってくる風のいたずらで、窓辺に吊るした紙テープが踊ります。

「まで～まって～」そう言って風をつかまえようとする女の子。風と「対1」でしばらくの間遊んでいました。子どもたちは目に見えない存在をみつめることが得意。その見えない存在と遊ぶことで、こころの中で大切にしているものを温めているように感じます。

ある日、男の子がこんな風に話してくれたことがありました。

「たびびとって ずっとひとりでおって

それでいつか おかあさんのとところにかえてくることやる？」

まるで、自分の通ってきた道のことを話すかの様に、静かな表情をしていた彼。子どもたちの表現には、そのイメージをかたちにしたたり、言葉にしたたりすることを通して、こちらに魔法をかける力をもっているように思います。いつもどうしようもなく、彼らの世界に引き込まれてしまうのは、きっとこの彼らの言の葉のおかげではないかなと感じてしまう日々。ここは、言葉にすることによって、ほんとうになる世界なのかもしれません。みんなで作った木のおうちの中で、うっとりとお飯（給食）の香りをそばに感じていました。(c)「あぁ、もうここおうちだったらいいのに」そうこぼした男の子。現実とイメージが心地よく曖昧な世界の中、今日も子どもたちはあちこちで言葉を交わし、仲間どうしでこの世界を味わっていることでしょう。そんなおおらかな彼らと過ごせる毎日に感謝するばかりです。





1



2



3



4



5



6



7



8



9



10

1.「ぼくのちいさいほうのおへや。ずかんとかおくぼしょもつくる」 2.「こうしたらなんでもかまくなる」セロハンをプンプンしていたらみつめたかたち 3.ビニールだけでつくれた「かいぞくせん」素材にふれて、感じ取ったものをかたちにした彼はすてきです 4.かめらになったカメラ 5.まほうにかかったみどりのペン。みどりの紙で包んだ、みどりのペンで彼の線が生まれていく 6.かぞくぼたん。「どのぼたんがすき?」の質問に「あかちゃんぼたん。もういっぱいあかちゃんしてる」と彼女 7.「うわあ〜、こんなことになった!」耳に粘土がくっついて、不思議なきいものに変身。よれよれとからだを揺らし、本格的に動きもつけたりして 8.「(しぶんで)みえないから、きよっちかかみになって」そう言っただけで感想を求められる 9.きやつあいをしらないきやつあい 10.ゆめいるたまご。彼女の「すき」がぐるぐるつまります 11.ひみつ子どもき 12.せいぎのみかた



11



12

いろいろなきょうりょうとのであい

つくりごころの材料を目の前に、あなただったらどんなリアクションをするのでしょうか？

子どもたちはまず、触る、触る、触る。

くしゃくしゃ びりびり ちよきちよき べたべた

いろんな音がしてきたかと思うと、それぞれの方法でその自分で選んだ素材と会話し始めます。

準備した材料は、日々の子どもたちからのアイデアや、自分の幼いころの記憶からヒントを得たりして。

子どもたちはその中から自分のアンテナにぴんときたものを選んで、ちいさな手の中で思いを紡いでいきます。その方法は十人十色。

一心に紙にハサミをいれる子、透ける素材に光を通して遊ぶ子、触ってそれぞれの素材の性格を楽しむ子、アイデアや、思いをお話する子、この空間に座ってもの思う子。

素材自体を何か動物や、食べ物に例える子もいれば、まっしろなところから自分で新しい存在を生みだす子もいます。ずっと楽器を奏でるようにして、素材からうまれる音を味わう子や、さわり心地を何よりも楽しむ子もいたりして。

本当にぎやかな音楽でも聴いているかのような時間。

こうして子どもたちは今日もあたらしく出会い、それぞれの思いで遊んでいます。

北村 きよプロフィール

芸術士在籍期間：2010.1～

専門：立体造形

たくさんの子どもの世界に触れ、自らの作品の輪郭に現れた今までにない柔らかさ。本当に驚かされました。

それは子どもたちからのメッセージ。彼らは確かにこの世界を自分の瞳で見つめようとし、他者へ発信しています。芸術士はそんな子どもたちの味方であり、仲間であり、この存在を未来へ伝えていくひとであればいいな。そう願っています。

きょう、あした、みらい

こぶし花園保育園での活動は3年目を迎えます。

朝の自由遊び時間の1時間弱。自由創作の空間“つくろうこーなー”を開いて子どもたちと過ごしてきました。

子どもたちにとっての一日のはじまり。大好きな自分や仲間に出会える場所であって欲しい。そう思って過ごす中、今まで出会ってきた子どもたちのことを考えると、ひとつの大きなつながりのようなものを感じます。家族にも似たそのかたちが、子どもたちの中にはどんな風に残っていくのだろう……。そう思うと未来の彼らに会う日が今からたのしみです。大きな流れの中に自分と仲間を感じたとき、それはきっとこの世界のことをもっとすきになれるドアになるでしょう。

「完成する」というところに着地することのない子どもたちのやわらかなアイデア、終わりという終わりのない時間。そんな時を過ごす今の彼らに関わっていること、ほんとうにしあわせに思っています。

子どもたちの表現は、いつもほんとうにお天気のようなだと感じます。たとえ今のきもちが雨降りだったとしても、外に発信することで、雨雲をふうっと吹いて、いつの間にかおひさまのような笑顔をみせてくれます。それぞれの中で見ていること、感じていること、受け取ったことをその手に、言葉にのせて表現して。色やかたちで自分の見たい世界をつくる子どもいれば、目に見えないかたちで自分とお話する子もいます。どんなかたちでもいい。彼らの中で“ここがすき”“きもちいい”“たのしい”と思える場所を見つけてくれる時間になればいいなと思います。



てんきによばれてつくりはじめる

ある日のつくろうこーなー。

つよい風が吹く、今にも雨が降り出しそうなお天気。

そのせいか、雨や風を描く子どもたちがたくさんいました。アルミホイルに勢いよくいろいろな青をのせはじめた男の子。(a)

「あめがふるから、あめかいてる」

そう言って、まるで雨の音でも描いているような。そんな線とリズムでしばらく描いていました。

するとその流れの中、自然にそのアルミホイルを丸め、黄色いテープで包みはじめて。「雨、もう見えないね」そう私から言うと、

「うん、これおひさま。おてんきになっただけ」

そう言って、ここの事情を“しぜんなことだよ”と話してくれました。おひさまも雨も、彼にとってはそれくらい自分と近い存在だったのでしょ。



はじまりはつくるうこーなー

“つくるうこーなー”は子どもたちの遊びの選択肢のひとつです。

砂場や鉄棒と同じように、出入り自由な空間。

つくるうこーなーという名前だって、その日の子どもたち次第。その時によって“はなびやさん”“おはげやしき”などなど、変化したりします。そのくらい、空気のような場所。

子どもたちの生活の遊びの中に、いろいろな材料をプラスしたことで、創作の場がうまれたことがこの空間のはじまりでした。ここには特別なルールはありません。

つくりたい子 話したい子、そしてただ思っていた子が、自分でここを選んで過ごしています。

ある日こんなことがありました。

何かを探している様子の男子の子。どうしたのかたずねると、

「どうしていまはとうめいのつるつがいないの？」

「おうちのまどをつくらなきゃいけないのに」

私のほうはすっかり忘れてしまっていた約束と感覚。

確かに、クリアファイルを透明素材として準備していたことがあったし、家族のお家をつくることも彼と話をしていました。「おしえてくれてありがとう。よく覚えていたね」そう私から言うと、

「うん、しんそうでおぼえとったよ」

と、お家の屋根をもくもくと作りながら彼は言うのでした。

確かに、夜にすむ部屋と朝にすむ部屋があるお家だったなあとか。彼のその言葉ひとつで、ふわっと約束をしたその日の記憶がよみがえります。

こんな風に、子どもたちの世界には、そんなにたくさんではなくても、ひとつでじゅうぶんに通じる時があります。言葉に少し魔法をかけて、生活の何気ないシーンもファンタジーに変えてしまう。

まるで秘密を打明けてくれるように誠実にこちらに伝えてくれる様子を、何度かはとさせられたことをちゃんと本能で知っている子どもたち。

この場所が、そんな彼らが物語りする場所のひとつであることを何よりうれしく思っています。

このつくるうこーなーを通して、これまでたくさんの子どもたちと過ごしてきました。

紡いだ日々の物語は、いつも子どもたちのその言葉と共にあります。

子どもたちはいつだって、正直に大好きなことをする気持ちよさをおしえてくれました。

他に代えられない大切なものをあためていることを伝えてくれました。

まるで秘密を打明けてくれるように誠実にこちらに伝えてくれる様子を、何度かはとさせられたことでしょう。

子どもたちから言葉をもらう度に、私はやはり“先生”ではない、ひとりの大人としてここにいるのだなあ実感します。確かに、彼らにとっての“友だち”ともまた違う。でも“友だち”のような存在。なぜかこのことに今でも感動してしまいます。もちろん、私にとってもたいせつな“友だち”である子どもたち。

「きみはすてきなひとだよ」

そう伝え、一緒に過ごした日々が、いつの日か大人になった彼らのきらきらした幼い日々を思い出すきっかけになってくれたとしたら・・・それは他に代えがたい喜びです。

“未来”である子どもたち。

つくるうこーなーが、これからもずっと彼らの味方でありますように。

1. 「みたことあるような～・・・ないようないる」粘土をスタンプ代わりにして。

想像もしないかたちが美しい虹色を残していきます

2. 「いまからうちゅうにかえるところ」宇宙からのお客さんとお話中

3. おひさまの上に雲をあげる男の子。雨が降るか、雪が降るかはお客次第

4. 「なんもみえんけど、なんかこわくない」プールの中みたいな景色とのこと

5. 「まほうがあかかなの」呪文を唱えながらテープで赤色の魔法をかけたのだそう。

魔法は子どもたちがイメージをかたちにする方法のひとつ

6. 赤色から見える夏 7. 3階建てのために2階建てをつくる

8. いろいろな角度でメガネを動かして、光の調節をしています。かたちが完成してもまだまだ終わりではありません

9. ハサミを動かす度、紙がクネクネうごくものだから。出来上がりに彼女が「けた名前」は「いむむし」

10. ストローを骨組みにして、中が空洞になったテントを見事につくっていく彼女

11. カップの丸みに気がついた彼女。

ハサミを入れて、プラスチックの弾力で生まれる不思議な動きをする相手にしばらく見入っていた様子

ものがたりのあるいろ

きもちのいい風が運んでくる匂いから「カーテンつくろう」という流れが生まれます。

透明のビニールをカットして。そこで色とあそぶように、ペンで彩りをのせていく子どもたち。ビニールの上ではあたらしい色が次から次へとうまれては消えていきます。「かちこちのいろ、できたよ。さわってみ？」そう言って色がうまれてきたお話や、色の性格をおしえてくれる子どもたち。火、水、風、かみなり。ひとつひとつの色に、お話がありました。



あそびはつづくよどこまでも

何気ないある日のできごと。

その日持ってきていた材料の中に、まだカットしていないおおきな透明ビニールがありました。

その“おもしろそうなもの”をみつけた子どもたち。すぐにそのおおきなビニールに包まれて、あそびはじめます。

まさに本能による反応という感じ。すぐにビニールの中はわくわくでいっぱいになります。息を吹きかけて、表面が曇る様子をみてみたり、とんとたたいて音をつくって聴いてみたり。

「みんな、こおりみたいになっとるよー！」と誰かが言うと、「さむーい！」とみんなで大合唱しだしたり。

そのとなりではいつの間にか子どもたちの手によってカットされたおおきなビニール。すぐにそのビニールで男の子たちが列車になって走り出します。伸び縮みするふしぎな列車。透明な運転席からみえる景色は、いつものお部屋とは違っていたのかもしれない。



あそびとある毎日

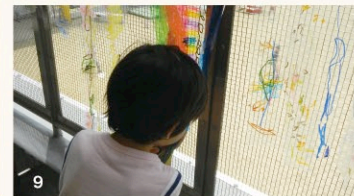
子どもたちはほんとうにかるやかに、あそびをつなげ、あたためていきます。手と、からだど、ことばとで。自分の中でのあそびと、友だちの思うあそびが通じ合ったとき、みせてくれる表情。

自分の中であそびをみつけたときの、ひとりひとりの表情。どの表情も独特の時間を持っていて、すこしこの世界から浮いている空気に包まれているようにみえます。

ある朝のこと。男の子が先週自分で作った色の匂いをくくんしたり、重ねてみたりして繰り返し遊んでいました。ふくふくと、いい顔をしていた彼をみて、子どもたちの世界をつくっているものは、決まりきった終わりや、はじまりでできているわけではなく、くるりくるりと循環しているものなのだなぁと感じて。このあそびから受け取った感覚や、風景が、いつの日か彼らの味方になってくれたらいいないつも思っています。



- 1 ばくのおなかにすむ、はちのきょうだい
- 2 みどりでまざってるびんくのどらごん
- 3 「ちっちゃいぶちぶちきこえる」そぎのおとをさく
- 4 動物が草の上をあるくような音がする
- 5 ぶぶちゃんびょういん
- 6 ぽっちゃんどわたし
- 7 ゆかにけんせつちゅう
- 8 きょうはびあののはっぴょうかいにしよう
- 9 ふくふくといいい顔をしていた彼



わくわくのたまごからテント

西春日保育所では、木を中心にいろいろなことが起きます。例えば木工コーナー。いろいろな材料で活動できるコーナーの中に、のこぎりや金槌を使って制作できる場所があります。かまぼこの板や製材所でもらった木材、裏のお山と一緒に散歩した時に取ってきたたくさんの木の枝。子どもたちは自由遊びの時間に「さあ、きょうはなにをつくろうかな」とわくわくしながら遊びに来ます。ここでは同時多発的にいろんなできごとが起こります。ある子はレストランのシェフをはじめ、ある子はいす作り、ある子は鉄砲づくり、ネックレスづくり、また別の子はひたすら、顔に目玉シールをはりつけていたり。みんなでいるけれど、ひとりずつである時間。同じ時間を過ごしているようで、違う時間を過ごすのが木工コーナーです。そんな中からあるとき、テントはうまれてきました。始まりは春。テントは季節の移ろいととも姿を変え、子どもたちと時間を過ごしました。「一緒にいること、あること」はいつでもわくわくする何かをうみだす「たまご」なのかもしれません。



木工コーナーのようす。ここでの活動が木のテントをうみだしました。



テントを作る子、それを見ている子。同じ時間の中、それぞれの活動



しるぐみテント

西春日保育所の子どもたちと一緒に、現在進行形で「テントというイメージ」をつくっています。子どもたちの中にある想像上のテント。星がみえたらいいねとか、まわりが海だったらいいね、と皆が自分のテントを心の中に持っています。それを様々な形で表現していきます。いつどのような形で現れるのかは、芸術士にも子どもにも、先生にもわかりません。あるときふっと思いついたように現れるのです。



子どもたちは山へ木をひろいに

4月のよい天気の日、4～5才の子どもたちと一緒に、保育所の裏山に木を拾いに出かけました。たんぼぼを眺めたり、ふかふかの藁の山を見つけて、飛び乗りばんばんはねたりします。西春日の子どもたちは木工の活動を一年間通してやっています。鋸を使って木を切り、釘と金づちを使い、自分の作りたいものを形にしてみました。「木工コーナーで使う木を拾ってね～」と言うと、競って大きな木の枝を肩に担いで持ってきました。どんどん木の枝の山が出来ていきます。この木の枝をテントにしたら面白いなあ、とふと思いました。子どもと先生に相談してみます。



暮らすこと

テント作りがはじまります。大きな造形物は子どもの力ではなかなかできません。子どもプラス大人。朝の時間、ためしにテントの形を組んでみることにしました。使う材料は木の枝と麻ひも。木の枝をひもでしばり、ぐっと立ち上げます。今まで地面に置かれていた木の枝が立体的造形物になった瞬間、子どもたちの目の色が変わり、わっと集まってきます。中へ入ろうとする子、「ぼくもやる。」とひもで木を結び始める子。テント作りとは関係ない砂遊びをしている子。みんな、同じ時間の中にいます。雨が降ってきたら、K君が布を持ってきてかぶせました。教室から鍋やお皿、おまごとの道具を誰かが持ってきて、いつの間にか暮らしがはじまりました。



テントに願いごと。たなばたテント

テントは続くよ。どこまでも

しばらく、テント作りの活動から離れていたある朝、折り紙を折っていたRくん。「これテントについたらえんちゃん？」と私に言います。2人でテントのところへ行って、セロテープでべたべた貼りつけます。いろんな形の折り紙。これは何かに似ているなあと思ったら七夕飾りでした。七夕テント。活動をしていないときも、子どもたちの心の片隅にテントはいつもあって、ある時ポンと扉を開けて出てくるのだなあと思いました。まだまだ続くテントの活動。現在進行形で続いています。



秋の光の頃、冬じたくへと向かうテント

まゆのように、うまれるまえの

たいせつなことは、大人と子どもの関係が親密であり、子どもの思いつきを聞き、すぐにカタチにできるよう動きかけることであったり、子どもと大人が話し合いながらやることでした。もちろん、霧のように消えてしまった思いつきもたくさんありました。思いついたことを何回も出来たり、継続してすることが、子どもの中にある「まゆのように、うまれるまえの」何かを引き出す手掛かりになったのかもしれない。その時間だけを「作る行為」ととらえない自由な視点、おもしろさを共有できる心こそ「芸術士」なのかもしれません。

阿部 麻海プロフィール

芸術士在籍期間：2011.4～
専門：彫刻・漆

彫刻、漆の展示「海の木」「旅をする木」「ふたついろとふね」「もりのはじまり」など。

映画「もんしえん」の木の舟をつくる。

アイヌの民具、沼津の漁労用具、三鷹の水車小屋、久米島の西銘誌などの図を描いたり民具収集整理などに参加。

子どもたちの中に息づくその土地のにおいにどきどきしました。

雪 降る虹の町のおうち

空と山、川に囲まれた塩江こども園では朝の自由遊びの時間や、日々の生活に寄り添いながら活動をしてきました。

夏、園庭で土粘土をだしてゆっくりと子どもたちと手を動かします。思いついたことを形にし、友だちとおしゃべりしながら作っていると、どんどん物語が紡ぎ出されてきます。雪だるま、ネコ、うさぎ、子ども・・・と小さな手から生み出され、やがて町ができました。その町には虹がかかり、雪が積もります。そうか、この町には雪が降るんだね。子どもたちを取り巻く自然の風景が、作り出すものに映し出されていました。空や雲、山や風、土、ツバメ、虫、木、花。それらは子どもたちの中を通過して確かにそこにありました。

秋、「おはよう。」の声に応える「カンカンカーン。」お祭りの鐘に見立てたフライパンが響くのをみて、ああおもしろいなあと思うひととき。ひとしきり、お祭り遊びをした後、たくさん荷物を持って、えっさえっさと教室に運びます。「おてつだいしてあげる！」と材料と一緒に運びトレイに並べてくれます。子どもたちの活動はどこからでも始まっていて、運ぶのも始まりの扉を開ける一歩。自分で「やりたーい」と言って来てくれた子どもたちは、おうちに遊びに来てくれた気がします。いっぱい遊んで楽しい思いをおみやげに、おうちに帰れたらどんなに嬉しいことでしょう。芸術士でいるということは、わたしという家の中にいるんな子どもたちが住むこと。子どもたち一人一人の中にもぎっと、たくさんの風景や先生や友だちや虫たちが自由に遊びまわっているのだらうな、と思うのです。



なんでもない日のじかん

大きなロール紙に軽やかな落書き。空と雲と地球の間でカサにお絵かき。うどんを歯の間からたべる技を教えてくれたり(さすが讃岐っ子)。手の中から秋がくるような、子どもたちが作ったもの。へいへいほーと粘土たたき唄。なんでもない日の時間。特別なことがあるわけじゃないけれど、それは特別になり得る時間。子どもたちと過ごした小さなカケラの様な時間が集まって、振り返るとパズルのピースが埋まっていくような日々が、しっかりとそこにはあるのです。

おわりのないつくりたいこと

ある日のひとコマ。今日は絵具屋さんで徹して、子どもたちの様子を見ていました。そうぐみさんの子どもたち、絵具でぐちゃぐちゃ色遊びした後、ダンボール箱にべたべた塗り始めました。今度は水を持ってきて中に溜めます。その中に3人がぎゅうぎゅう入り、べちゃんと潰れるダンボール。続いて大きなロール紙をびりびり破いたところでプールの時間になりました。何が楽しいのかわからないけれど、(そういう風に思うところが大人ですね。) なんだかとっても楽しそう。つくりたいことをつくる時間になりました。



えーと、きみはいま・・・？どちらさま・・・？

今日も彼は宇宙に飛んでいます。(遠いぞ・・・) 宇宙船をずっと作り続けて、とうとう今日は宇宙ステーション。朝から、今日はこの子はどこらへんにいるかを、まず探したりします。宇宙へ飛んでいる子、道路へお出かけの子、プリキュアになっている子、おうちにまだいる子(心はまだこども園に来ていない様子)、わんこになってお散歩している子、「ダンダダダン、ダダダーン、ダダダン。」ダースベイダーの曲をくちずさみながら登場する子。えーと、君はいまどこにいるのかな？いま何をしてるのかな？時には人でなかったりするので、臨機応変、適当に対応。いろんなものとか、いろんな人とか、壁を越えて存在しちゃうのがすごいところ。

あしたのあしたのあした

「あべせんせい、いつくるん？」
 「えーと、来週の木曜日かな。」
 「らいしゅうって？あした？」
 「うーんともっと先。」
 「あしたのあした？」
 「もっと先。」
 「あしたのあしたのあした？」
 なんとということでしょう。来週の木曜日は明日のあしたの明日・・・(略)の積み重ねなんだな、と、子どもたちの言葉ではっと気づいたのでした。一足飛びに来週の木曜日がくるわけじゃなくて、今日の地平線上に明日があって、明日の地平線上にそのまた明日がくるんだな、ということ置きまりにしていない、子どもたちがいたのでした。



木太村をつくっていくプロジェクト

3人の芸術士で交互にあるいは一緒に関わるこの園では、村作りという設定で進めてみたのでした。自分の家を作ったり道を結んでいったり、その都度、儀式的な活動を大人数の子どもたちが行います。

場づくり

主に絵画造形の領域をベースにしつつ、そこにパフォーマンスの要素をミックスし、2～3時間をホールで制作して過ごします。

この3人ユニットの関わりかたは、その環境作りを3人で手入れするといったものでした。大まかなコンセプトや内容は3人で相談したものを園の先生方とすり合わせ、北村・阿部芸術士が画材等の選定と下さりえ、制作サポートを。村井芸術士が村長や妖精等の役、生演奏、ムード作りを担当しました。

より解放度を高くする為に、先生の役割はホールに子どもたちを引率して来る程度でしたが、その後、振り返りの時間を大切に設けてもらえる事でじっくりと対話する事ができました。芸術士と幼稚園教諭がこの様に立ち位置を組むのもひとつのあり方だと思えます。



木太村と子どもたちで作る景色

- 1 大きい妖精が浮遊する日
- 2 村開きのお祝いのお祝い。揺れるフワフワと同じ様にみんなも動きに引っ張られます。
- 3 緩い音、リズムカルな音、オノマトペ、様々な音を漂わせます。

絵や造形のできる砂場といった様相

オープンアトリエというよりは、床面一杯のキャンパスが砂場の様にどこまでも妄想を膨らませられる場であったように思えます。



どこにでもつながる道

いろんなものでつくるコーナー。たくさんの素材を前に、夢中になる子どもたち。その手からは形にはばられない不思議なものが生まれてきます。誰かが、「げいじゅつってリサイクルみたいなもんやる」と言い放っていて、なるほどーと思ってしまいました。別の場所では、クリスマスカラーの緑と赤のロール紙の上にちいさな紙を貼り付けて、だんだん道路ができていきました。観ているほうもまきこんで、もっと長くこの先を、という気持ちがそこにはありました。



顔に塗りたくる彼
色が土と化すのでした。



風をつかまえる日。
今日は、気持ちよく風のおとる日。朝からずっと風と一緒に彼女でした。



「ソマであるよ」
ストローで作ったピアノ。その音色までおしえてくれた女の子。



カタマリ
とつぶやきながら、粘土を握りしめる彼。先生の話は耳に届いてはいなさそうですが、帰りの会の時、みんなに今日良かったものをみせようのコーナーで、誇らしげに粘土のカタマリを掲げていたのが印象的でした。その後、制服を白くさせながら、しっかり小脇に抱えて帰っていきました。自分の大事なものをちゃんと知っていることって素敵です。

ときどきどきどき

～1種類だけじゃない～

毎日生活している大家族のような保育所に、週に一度やって来て一日生活を共にする人。近所や親戚のおじさんのような存在でしょうか。

そこにうつくしいことやおもしろいこと、心が動くこと。

違う視点でみることを拾う(探す)芸術がくつついて、芸術士。

こんなにんげんもいるよという選択肢のひとつを提示していると思います。

他にも様々な環境で生活している人がいるので、より多様な種類の大人を子どもたちが目の当たりにできれば、どうにか生きていくやりかたを自分でたくさん獲得するヒントになるかと思えます。

～ナマモノナマモノ～

子どもは未知の可能性のかたまりです。芸術はなんだかわけのわからない!や?のかたまりです。ふたつは相性がよく化学反応をおこしやすいのです。

そしてそれは理解できる形になっていなかったり、砂絵の様にある時間を過ぎると消えてしまったりします。

どこにどう風につながってゆくかは、とても長い目で見てみなければわからないから、手入れは続きます。

～狙っていない所があたる 右に行こうとしたら左に行っている～

プランした活動があたらず、その他の生活の時間に面白い事が起こる事が多々ある。提案した内容のココという所がウケずに、その前後で盛り上がる時があり、外遊び・昼食・何気なく過ごす時間に関わっている中で、みんなの言葉や行為に心奪われる表現が割りと溢れてくる。

計画したものと即興的に起こる出来事が連動しているかはわからないが、どうも思わぬところにお宝があるようです。



うたとおどりはひとつです

あらかじめ振付けはなく、ここで終わりというもなく、その未知数な感じが、子どもの持つそれと相性がよいのか計り知れませんが、そこら中でコトバ・オドリ・オトが一つになったこの時間が子どもグルーブを育てています。

コトバを手がかりに、手足や頭がオドリ、オトと共うねっていきます。



窓のコエを聴く

初日のダンスの流れの一コマ。
壁や床やホールにあった物々に耳を澄ませてみます。聞えるかな？
ヒトとマドがお話しようとしているよ。聴覚がちがう方角へとすすむのです。



ふたつ目の顔

ミスリ用紙のミスしている方が仮面のデザインとして活用されたりする。顔写真が目の所だけくりぬかれたりやたら面積の小さいのが出来たり。



しずむ音

ボウルを楽器にしてパフォーマンスもするので、水面に浮かべると音色がよりゆわわ〜んとして楽しめるのではとプールの提案。彼ははじめガンガンと叩いて楽しみますが、水中へと楽器は潜って行きます。そうして水を叩く小さき者の姿が浮かび上がりました。



歯磨き粉でドローイング

歯のポスターの依頼が保育所に来ます。子どもには大人側からの要請がたくさんあります。どっちにも繋げられる方法はないかと思ひ、筆を歯ブラシ・絵具を歯磨き粉で描いてもらう機会にしてみました。いつもは口や歯を掃除するもので絵を描いてみることに。



鼻でも吹けるのよ

各種楽器のデモ演奏をみんなに観てもらった後、真似しながらプープー音を出してみる。笛は口だけじゃなく鼻でも吹けるんです。当然といえば当然の仕組みですが、そこに考えが着地するのが妙なのです。



あたりまえのふうけい

手ほりに同行します。いつもの保育所の活動にそのまま入るのもまた関わりの一つです。そしてこの辺りでは手ほりは自然な景色ですが、また違う場所では変わった珍しい風景として見られるのかも知れません。そう思うと世界は可能性だらけです。

村井 知之プロフィール

芸術士在籍期間：2009.10～
専門：パフォーマンス

1974 日本・香川生まれ / 生感・即興・普段スポットの当たらない事を軸にした作品(企画)制作を行う。
1994-1997 絵と詩を描きながら全国路上行脚後、個展・パフォーマンス・WS・イベント企画等アレコレ。
アートでたんぼ(2000～)・ラヴィース(2006)・モノケシアター(2008～)・リララジ(2009) 芸術士(2009～)・クールクルチーパッパ(2012～)・2014.1-3 旧藤田外科アートプロジェクト 201 号室他展示と週替わりでパフォーマンス展開中。
ブログ；mucaramel.exblog.jp

まいにちのツブツブが重なってゆく

～あらかじめ用意したメニューじゃないものがヒットする。～
 人生は予定通りには進まない事もあり、組んでいたプランが出来ない事も多々あります。普段から園にあるもの。いつもの一日の流れにそのまま身をおいて過ごしている中で、なにか違う景色が見られないものかとの思いを胸に悶わります。するとときどき出くわします。

なにかちがう砂場遊び なにかちがう部屋遊び なにかちがうやりとり。
 それらは傍目には地味だったり、?だったりしますが、園庭の片隅で、会話の中で起こっているのです。

～ゆっくりひとりから見えてくる～
 数十人と関わっていても、気になるポイントが現れるのはその中の一人だったりします。そこに焦点をあててじっくり見ることもできます。

全員均等には見なくてもいいのです。
 踊りに類する事をよくするのですが、ここで見た多くの人は、リズムに乗ってびよんびよん弾ける、そんな外開きの動きでした。しかし年中の彼女は、びよんびよんはしつつも何処か舞踏を思わせるようなゆっくりとした粘着性のある動きをしていて、中間きな質感を醸し出しておりました。皆それぞれ違ったステージがあるのですね。

～オフな時間 オンな時間～
 可能な限りゆっくり落ち着いて好きなように、完成・出来の良し悪しをつけない時間を作ってほしいとの事だったので、そんなプランをアレコレ展開してみました。大枠の流れが決まっているもの・即場的-即興的に展開してゆくもの。
 その中でみんなはどうかして、しこたま遊ぼうとします。芸術士が滞在しない他の毎日の彼らの様子はわかりませんが、オールオンな生命活動をしている様に見えます。子どものオフってどんななのでしょうね。



連続の中からうまれてくるオドリ

活動の時間と区切って始めるのではなく、普段どおり園庭で過ごしている中に一緒に居る。
 話したり・彼らのやる遊びをなぞったり広げたり・はたまた動いたり音を出したりする流れの中で、おどりがうまれてくる。



お馴染みガチャガチャ

千数百個をザバーッと流し込みフカフカ浮かぶ中で過ごす。
BGMはポッサ・サルサ・レゲエ等。時折いつもの水遊び場が異空間になる。
視覚から入ってくるプール。



誕生会と新規先生紹介の会でのパフォ

最後は私の番。被り物を脱ぎ、少しカリ
ンパを弾き、体の動きと喋りでみんなを連れ
て行く。彼らのアンテナにちゃんとチュー
ニングできると、面白くなって動きや音を模
倣する。体がムズムズした体験はちゃんと
残り、次週会う時に連鎖してゆく。



それぞれにやることがあるんだ。

皆がひとつの活動をしていても、各々違
う動きをしていて当然です。新聞紙で何
か形を作りたい人もいれば兎に角隙間に
詰め込みたい人もいる。切って張ってが
したい人もいれば、ゆっくりテープの巻
きを眺めながらほごきたい人もいる。



絵を描くってなんだろう？

キャラクターやデフォルメされた動物の絵をトレースするのが年長さんで流
行っていた。そこで美術家達の作品の写し絵はどうかと投げかけると、すん
なり描き出す。写さずとも元々タフな抽象画を描く彼も居る。様々な環境の
人々の絵を並べて観たら面白そうです。



壁が衣装美術館

衣装作りの話があがり、イメージの
種にと保育所にはなさそうなモチー
フを繋げてアトリエの側の壁に展示。
ガヤガヤと眺めるみんな。
観て感じるのも大切な行為と
考えます。



ヤキイモ音頭

ヤキイモがおいしく焼けるように傍
で笛と太鼓と歌とで回る音頭。
以前作った御輿もかついでワッショ
イヤッホイ。
混沌と何やら興奮度が高いと、人々
は自ずと一体化するのです。

フダンを旅する

～派手なとき も 地味なとき も ある～

よくアートはダイナミックみたいなことを言われたり、要求されたりします。確かにそういうケースもありますが、それが全部ではなくて、地味だったり、静かだったりする中に、なにか美しさや面白さを喚起させるものも多々ある事を是非わかってもらえると助かります。

ここでの関わりは大体が後者です。夏のプールサイドダンスやガチャガチャとハロウィン位が派手目な所でしょうか。淡々と普段の一日を過ごします。その中で、時折たくさんのだんぐりの中から色の違うものを拾い上げるような、そんな作業を数年練り上げています。散歩して何かに遭遇する、釣りをして魚がかかる、そんな感覚かも知れません。

～正しくない おかしい～

私は正しくなく。子どもの邪魔をしないように気をつけています。ある楽器の奏法を学ぶには、師匠は何も教えずに学びたい人はその側で見て盗むというやり方だそうです。同じようにこっちのやっていることで、ピンときたところを拾って模倣してくればよいと思います。

～なんでもなさ 普通 / 普段 を想う～

なんでもないのは目立たない ほとんどの人に気づかれない
 普段はなんでもない なんでもなくあたりまえに普通だから
 これまたほとんどの人が気づかない その価値や意味に。
 なにかあったとき なにかフツとしたときに 気づく

部屋でいたり 園庭を動き回ったり 友だちと喋ったり
 ご飯食べたり寝たり その中にいっぱいある



ハロウィンで練り歩き

近くのお店等にトリックオアトリートに参加します。仮装していきます。昨年はアリスだったので、今年はチンドンの仕事で使う楽器一式を持参しリズム隊で参加しました。こういう大掛かりなゴッコを、もっと熱心に大人がやるとよいと思います。かつてそこら中にあったお祭りのように。



手の中での出来事

恐竜をみんなが油粘土で作っている。ちらちら横目で見ていた彼女は机の下でも小さなものを作り始めました。こっそりマイペース。



サッカーの応援

保育に別の視点を入れる事がより特化されたこの保育所ではアドバイザーの役割で関わります。応援を見ていて、小枝が落ちていたので拾ってチアガールの様に振っていると、みんなもガンバレがんばれとはじめます。



ぐちゃぐちゃやけどなんかええなあ。

そういうことです。衣装作りで捨てられた色紙の破片が私がオブジェしていると一緒に始めたR君。ちぎったり・折ったり・配置を変えたりする内に、きれいになってきた、とも言っておりましたよ。



元々あのロックスターが大好きで

元々あのロックスターが大好きで普段からキングオブポップが好きな彼は、プール時も音楽がかかるとすぐワールドに突入できる集中力の持ち主。目の前で何が起っていてもダンスを完遂。



アンキロサウルスの歩き方

骨を発掘する

恐竜博士のA君は、常に頭の中がその事でいっぱいです。部屋からの続きで園庭でも化石や骨を探します。木の根が骨じゃないかと持ちかけると、スコップで丁寧に浮かび上がらせていきます。



不思議なバランスの恐竜

べったんこの方が頭らしいです。



プールもダンスフロアなのです。

恒例のBGMをあれこれ流し、私も傍で踊りつつ、フラやバレエを習っている人はその手の音楽だと踊り、色々観たもの・体験したものをから抽出して組み合わせて踊りを生んでいく人もあり。

指先で語る子どもたち

人間の進化を助けたのは、直立歩行によって手を使う作業ができるようになった事とそれに伴う脳の巨大化。それほどに指先の作業は人間に大切。細かい指先の作業は年齢を問わず必要で、高齢者の活動でも多用され様々な成果をあげています。

さくら組（2歳児）にとっても同じこと。日々ブロックや積み木で遊んだり音楽を聴いて踊ったり・・・様々な活動で目や足、手など体を使い遊びます。

制作活動もそのひとつ。クレパスはもちろん、筆や絵具、のりやはさみなど、いろいろな素材や道具を使い遊びますが、その指先は、春から夏、秋にかけめざましい発達をみせてくれます。そして常に子どもたちの制作は、おしゃべりが一緒です。「きのう、お出かけしてね～」「ママとね～」・・・子どもたちは自然に、楽しかったこと、大好きなものを形にしていきます。子どもたちの小さな指先から生まれる作品は、消えてなくなる言葉以上にたくさんの物語を語ってくれています。

小さなさざなみを記録する

粘土遊びは、どろんこ遊びの延長に存在するものだとおもうので、年齢に関係なく遊ぶことのできるよい素材だと思っています。9月にさくら組（2歳児）、ばら組（3歳児）の異年齢で粘土遊びをしました。



進化する粘土遊び

7月にも一度さくら組（2歳児）だけで粘土遊びをしました。粘土を重ねたりくっつけたりが主なものでした。その中でも子どもたちは「山」をつくって登ったり、お友だち どうしてちぎった粘土をつなげたりと、なにかひとつのものを協力して作るという、新しい関係ができていたように思いました。



自分の想いを形にする大切さ

2 回目の今回は、前日から「〇〇作る！！」と楽しみにしていたばら組（3 歳児）も参加し一段と会話や動きが楽しいにぎやかな活動となりました。ばら組（3 歳児）のお兄ちゃん・お姉ちゃんたちが足やおしり、手のひらをいっぱい使い作るお皿やおだんごを見ていた、さくら組（2 歳児）の子どもたちはさっそく自分でもチャレンジ。たくさん作ったお皿を重ねてつぶして「ぼくのおうち」を作り、その周りに家族に見立てた、おだんごを並べてひとつひとつ説明してくれる Jくん。普段、口数少ないばら組（3 歳児）の Rくんも粘土の持つ柔らかな感触に、表現する自由を見つけたようで、自分が大切にしているもの（おかあさんが作る大きなおむすびとバナナ）を形にして「食べて！」と言ってくれました。

ばら組（3 歳児）の Kくんがくれた 棒状の粘土をさくら組（2 歳児）の Kくんが自分の作品にくっつけて遊んだり、あちらこちらでちいさな交流（さざなみ）も生まれていました。



日々うまれる漣を記録する

2～3 歳児において、自分が「すごい」と思ったことをまねするのは、ものまねではなく「学習」することだと思います。まねする事で自分にできることを見つけ、「次にどうすればいいか」考える力が育つのだと私は思います。まさらかな心と体の子どもたちは、未来から送られてきたプレゼント。心に透明な泉を持ち、小さな漣（さざなみ）を起こしながら・・・無限の可能性を持ち成長していきます。そんな小さな漣を記録できることに感謝する日々です。

椋本 美千子プロフィール

芸術士在籍期間：2010.1～
専門：日本画

小さい時は海や野山で走り回り、お気に入りの藤花のハンモックで読書、お絵描きと本が好き少女時代を過ごす。会社員時代に2人の子を保育園に預けた経験を持つ。「自分にできることはなんだろう」子どもたちと向き合う時、いつも自身に問う言葉だ。子どもたちと関わり出来あがった作品には、作っている時の思いや感触が閉じ込められている。そんなタイムマシンをこれからもたくさん作りたいと思っている。

二十六のひとみは、今日も冒険の旅にでる

あいりす組 (5 歳児) すみれ組 (4 歳児) ちゅーりっぷ組 (2 歳児) もも組 (1 歳児)

園庭にある樹齢30年のさくらが印象的な下笠居西部保育所。初めて保育所を訪問した時も「お天気がよいから」と、ピクニック気分でお外で給食を食べる日でした。私も子どもたちといっしょに、葉さくらになったさくらの木から青空を見上げてお弁当タイム。ほどよい木陰をつくり子どもたちを見守っているかのよう。Sくんが「さくら咲いた時、きれいだったよ」と教えてくれました。

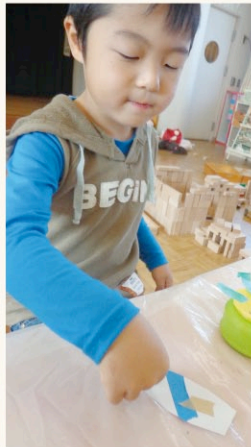
豊かな自然に囲まれて事件もたくさん。川岸にうちあがった、頭に藻の生えた大きなボラ救出ミッション。日々園内に遊びにくるトンボや昆虫とのランチ。さくらのうろにたまごを産みにくるカニたち。園庭で遊んでいる時間ずっと、自分の何倍もある虫を運ぶアリを観察した時もありました。そんな生き物たちとの交流が子どもたちの想像力をうみ、まるで探検家のような好奇心をはぐくんでいます。春から秋まで、いろいろな制作遊びをした子どもたち。小麦粉粘土での「おいしいもの作り」、土粘土で「おじいちゃんが畑に忘れた長靴」や「スカイツリー」、葉っぱスタンプでは、紫蘭の葉っぱが「りゅうぐうのつかいがある海」に変身。パンジーの押し花や染め紙の「あじさい」。墨彩遊びで「夏野菜」、春から育てた藍を使っの絞り藍染めなど。身近な素材を使い、手を使う感覚を大切に様々な表現方法を体験してきました。そしてそこには子どもの数だけ個性がありました。

今、さくらの木はありません。残念なことに塩害で木が傷み「あぶないから」と伐採されてしまいました。切られる前日、子どもたちとさくらの木のお別れ会がありました。「きれいな花を咲かせてくれてありがとう」「虫怖かったけど・・・」子どもたちは思い出を語り、歌を歌ってお別れしました。さくらも子どもたちとお別れを悲しんでいるような涙雨。さくらがなくなっはや3か月。「かしもと先生おらん時な〜」から始まる冒険譚。二十六の瞳は、自分達の手で目で耳で鼻で・・・五感をフル活用して体全体を使いすべてを感じようと、今日も探検の日々です。



大切な思い出を見つめること

「さくらの木のことおぼえてる?」「うん! さくら咲いた時食べた、お花見給食おいしかったんで!」さくらがあった場所で、Cくんが発した一言から、「みんなでさくらの木を作ろう」と始まったプロジェクト。紙粘土や花紙、絵具を使いみんなの想いのこもったさくらの木は、今も子どもたちに残っています。



遊びのなかに見えるもの

保育所での活動や遊びの時間を子どもたちと一緒に過ごしていると、いろいろなことが見えてきます。プール遊びやお散歩、餅つき……。どの活動も楽しい遊びにしてしまう子どもたち。子どもにとって遊びは生活の一部だと感じます。ある時、園庭で吊り輪遊びをしていたH君。上手にぶら下がり遊ぶ様子をみたK君も一緒に遊びだしました。でも、なかなかうまくできないK君。最初「早くかわってよー。」と言っていたH君でしたが、次第に頑張るK君に「こうやってな、両手で持ってぶら下がるんで。」と、まるで先生のように教えていました。K君が満足し「もういい」と言うと「また、教えてあげるわ」優しく声掛けしていたK君。時には厳しく、時には自分の遊び方を見せながら教える様子は、遊びの中から友だち同士の関係や優しさ、思いやりを学びあう、子ども本来の姿です。

大きな大きな木

木をつかってたくさんあそぶ
 コンコン トントン ごりごり しゅるしゅる ぱりっ
 この木は大きな木だったんだよ
 大工さんや家具を作る職人さんからもらってきたんだよ
 いろんな形。重さもばらばら。濃い茶色や薄い茶色。
 皮がついたままのものや 切り込みが入ったのや 穴もあいてるね
 うすーくて透けて見えるのは かんなくず
 これ全部 木なんだよ

ふーん においもあるね
 ここはバサバサしているなあ
 木の棒でこんなに釣れた
 この すきまに挟めるかな
 釘がささっているのもあるね
 ドリルで穴をあけてみる？
 高くたかく積み上げてみよう
 ふたつをぶつけると いい音がする！

そうしてこうして 興味が湧くままに
 あっという間に一時間
 次もまた遊びたいな
 今日の時間はこれで おしまい



大きな大きな木の皮をつくる



発表会の舞台セットを作る

今年は年長さんのクラスで「大きな大きな木」を作りました。子どもたちがゆーに 10 人は入れる大きな木です。絵本では、ちょっとくたびれたり悩みを抱えた者が、この大きな木のうろで休んでまた新たな気持ちで出て行くのですが、発表会では象徴的に舞台の真ん中に存在して、子どもたちが朗読をしました。造形的には木の表面しか作っていませんが、子どもたちがこの木の存在を感じながら朗読していくさまは見応えがあります。



釘をコンコン



どんどん高くつみあげたい!



バランス バランス



水にぬれたら、そっちゃったー!!



うほ〜こんなにとれた!

カメラみたいやね。
ここにポケットと釘があつてね・・・

魅力たっぷり。木と遊ぼう

興味が湧く、その瞬間を大事にしています。興味が湧いたら後は子どもたちの時間です。次々にひらめいて、ときどき私も混ぜって一緒にひらめきます。子どもたちはまず、自分のやってみたいことを実践し、ちいさな達成感が一段落すると周りにお友だちに気づきます。そして、お互いのしていることを見ながら一人ではできなかったことができるようになったり、協力してひとつのものを作り始めたりしながら、世界が広がっていくのです。

白澤 知里プロフィール

芸術士在籍期間：2011.4～
専門：人形劇・パフォーマンス

香川県生まれ、香川県在住。
人形劇工房 白.:(siro labo)
工房長。2003年、(人形劇団
ブーク(東京)入団。北海道から
沖縄まで東京都内を中心に人
形劇を上演・創作する日々をお
くる。【主な参加作品】「しりた
がりやのゾウさん」「みいつけ
た!」「新☆三銃士」(NHK)
等多数。2011年より新しい人
形劇の可能性を探しつつ、香川
で芸術士としても活動中。

子どもたちと歩むよろこび

城東保育園で芸術士をはじめて丸4年が過ぎた。

この園ならではの特徴は、クラス全員参加で午前、午後のいずれか1時間～2時間余り活動すること。4歳児の後半からお昼寝がないので、年中年長さんは午後の活動が出来る上、活動日数も多いので子どもたちに接する時間も多し。

時間がたくさんあるとゆとりが生じ、個人の作品、数回に渡っての大きな作品づくり、共に子どもたち一人一人とコミュニケーションをとりながらすすめていける。活動当初は5歳児のみだったが、年々年齢が下がり現在は2歳児から5歳児まで、4クラス約110名を対象に活動を楽しんでいる。

2歳児はクレパスと絵の具を使い、大きな紙や布に筆やローラー、素手で自由にのびのびお絵描き。描くことや素材に抵抗を無くすることが最大の目的で、4月から始めて10月には1人残らず楽しんでくれるようになった。

3歳児はクレパスと絵の具に加え粘土やハサミなどを使い、イメージしたものを少しずつかたちに出来るように…。道具の使い方を丁寧に指導すること、一人一人をほめることが、子どもが今後自信を持って取り組んでくれるかどうかの別れ道。私にとって一番気を遣う年齢。

4歳児になると活動時間が増加。どんどん自我に目覚める子どもたち。担任に助けられながら子どもを信じて、やりたいようにしてもらいたいところをしっかりと褒め、他は目を瞑りつつ…たまには叱って子どもたちとの信頼関係を築くことを心掛けている。数をこなすことで子どもたちはイメージしたものを正確に絵や色で表現することが出来るようになり、大きな絵を描くことでお互いを認め合うようになり、それらは全て彼らの自信につながっていく。

5歳児はテーマは担任と相談し、後はほとんど子どもたちにお任せ。私は一人一人を褒めることと色彩調整にだけ集中、こちらが子どもを信頼し楽しんでいることは伝染し、彼らの飛び抜けた発想と自信が合間って想像を絶する素敵な作品として表現される。

園長先生とミーティングを重ね、園の方針を踏まえつつやり方を考え、子どもたちの不可解な行動に対して保育のプロならではの助言を頂きながら又考え…思いを共有しながら歩んできた。

活動の合間に担任の先生と子どもの成長を分かち合いながら、最近になってようやく子どもたちを一人一人、切り取って観られるようになってきた気がする。

「芸術士は保育園にとって居るだけで異色の存在、自身の本領を發揮せず子どもたちとコミュニケーションをとりながら子どもたちの個性を芸術士の視線で観察し、保育園に還元することが大切」というコンセプトでスタートした芸術士活動。

この園で自分の立ち位置を探り、子どもたちと一緒に何が出来るかを考えて活動しているうちに、子どもたちとのコミュニケーションは制作を通してが一番、保育士さん達に出来ないことをしなければ芸術士として保育園に居る意味がない、という考えに落ち着いた。そして活動しているうちに生まれてくる作品がどんどん大きくなってきた。

大きさは子どもたちへの期待、生まれる作品はいつも期待を越え力強いワクワクした感動を与えてくれる！

スタート当時のコンセプトが時を経て、かたちを変えつつ城東保育園の中で育まれていると実感するこの頃。

前しか向いていない子どもたちと関わることで私の中にも未来への希望が湧いてきた。



1



7



8



2



3



9



10



4



5



6



11

活動風景

- 1.2.3. 部屋いっぱい！えのぐとクレパスでお絵描き（2歳児）
4. えのぐでマニキュア（4歳児）
- 5.6. クリスマスツリーとサンタさんになった自分（4歳児）
- 7.8. 個人制作 発表会の思い出（3歳児）
9. クリスマスツリーの素材づくり（5歳児）
10. 図鑑を見ながら描くのも手段のひとつ（5歳児）
11. クリスマスツリー（5歳児）

谷 由貴プロフィール

芸術士在籍期間：2009.11～
 専門：染織・美術家アシスタント

香川県牟礼町生まれ。京都芸術短期大学染織コース卒業。1989年より川島猛氏のアシスタントを務める。

芸術士として子どもたちと一緒に時間を重ね、かれらの描く線にワクワク！色彩感覚に魅了され、その世界にどんどん引き込まれている私。小さな子どもたちが生き方のヒントを与えてくれました。

おいしい うみ

ふじぐみのおみんなは、お絵かきが大好き。紙が何枚あっても足りません。もう、紙は白くなくなっていていい、四角くなくなっていて、・・・紙じゃなくても!？そして描かれる絵はとっても魅力的!

思うままに力強くひかれた線で、それぞれの世界をつくっていきます。

例えばみんなで同じひまわりを見て描いてみる。

葉っぱをほっぺにスリスリして、「やわらかい」とか「匂いがする」とか、花びらに線が入るとか、星のかたちをしているとか

発見を声にだして、みんなで気づきを共有しているように見えても、出来上がる絵はそれぞれ違う。

絵の具を使い出すと、みんな「絵の具研究室の絵の具博士」になったように、実験、発見、また実験、発見をくりかえす!

8月、9月はこの夏、みんながいっぱい遊んだ「海」をテーマにたくさんお絵描きをしました。

すてきなブルーの波の絵、聞くと、タイトルは「おいしいうみ」。

うみは、うみの中の食べられる生き物の味がするらしい。

一つ目のイカはケガをしているわけじゃない。

目からビームが出る、強くてカッコいいイカ。らしいです。

「海の絵に、なんでリボンがくっついてるの?」

その答えは、「海はかわいいから、リボンつけてあげたよ。」なるほど!

子どもたちの描く世界には、展開の読めない、とーっても魅力的なお話があるのです。

展覧会などで展示されているよそ向きの作品より、日常で生まれる小さなうみがかきこが、本物の表現だとわたしは思います。



うみのもようたち

1. 『しかくのうみ』朝、昼、夕方、夜、うみはいつも違う色。
2. 『うみのひと』うみに入った人間はうみの色になる。
3. 『ふつうのうみ』平たい波はふつうのとき。
4. 『かわいいうみ』かわいいうみに、リボンをつけたよ。
5. 『おいしいうみ』うみは、うみの中の食べられる生き物の味がする。
6. 『ぶつぶつのうみ』みんながたくさんいるからぶつぶつ。



油性マジックでお絵描き。



透明色紙も用意しました。重なると変わる色。



いつもと違う部屋に見える。



ふくらませてもうつるかな。



光と遊ぶ

5月。

今日はとっても雲の流れがはやい。曇ったと思ったら、突然ピカッと太陽が顔を出し、すぐまた雲がやってきたり。

今日は透明のビニール袋に絵を描いて、光に透かして遊んでみました。真っ白な紙に写る絵の鮮明さは太陽の光の強さに比例します。

曇ると、子どもたちは大きな声で「たいようー！でてこーい！」と叫びます。

永島 香苗プロフィール

芸術士在籍期間：2010.1～

専門：絵画・立体

わたしは受けてきた教育の中で、いつからか表現が「美術」や「音楽」、「パフォーマンス」といったカテゴリ分けされていることを当たり前に思っていました。けれど、子どもたちの日々の表現に垣根は無い。海をテーマにした絵の具遊びでは味を想像したり、ストーリーがあったり、紙の上の色や形で留まることはありません。晴れた日は太陽の光で遊び、雨の日は雨音で遊ぶ。画材屋さんで売ってるものだけが材料ではないことを気づかされました。

日々、出会う

本年度、2年目を迎えたみのり保育園では、先生方との話し合いのもと、年長さんから年中さん→年小さん→2歳児さんのクラスを巡回していくスタイルで活動が始まりました。

夏、ボディペイントでは、絵の具を着ているみたいになるみんな。おめんを纏う様に、絵の具はみんなを最強にした。

そして、絵の具を帯びたら命を宿したかのように、生き物みたいにうごく布。

去年、みんなで遊んだ素材（去年の年長さんたちとお絵描きした素材）を見た時、「おぼえとるよー!」「あれ、知っとるよ、えのぐしたやつや!」と言うみんな。また、去年とは違う感じ方、発見があるだろう。みんなの過去と今が結びつくように。思い出も一緒に、次に変化出来る。

初めて触れて、一生懸命に遊んだ紙粘土を手渡してくれた時、粘土の温度からみんなの楽しさが伝わってきたり。

木の板に理想の家を描こうとはじまったお絵描きでは、表に家を描き、裏にどこでもドアを描いて、まるで時空を超えた場所をあっという間につくったり。広げたロール紙の上を生き生きとした表情であちこちと行き交い、まさにお絵描きの旅。「あっちにも描いたし、こっちにも、その次は〜こっち!それから〜ここにも描いたよ!」

お絵描きの旅はつづく。

何色が好き?と問うと、「ぜんぶ!」と言うみんな。パレットに登場した色は、最初はみんなおなじだけど、それぞれが、じぶんの色をつくっている。

「風の色は緑色にしたんや。」「いっぺん見たことある景色を描きよんや。」

日常がハッとするように、パズルがびたつとはまるように、言葉を超えて伝わる一瞬のひらめきは、想像する想いにスイッチを入れてくれる。

小ささや大きさでは計れない壮大なキャンパスのような想いの積み重ね。クラスごとに何かをつくる、絵を描く、感じてみる、考えてみる、そのどの表情を切り取ってみても、全体での活動でも、やはり、みのり保育園さんの色が集結するおもしろさ。

ここにみんなが存在しているという、そんな即興エネルギーの響き合いを感じる。

ひとりひとりのパワーが重なれば、どんなに小さいものでも、重厚感が増すように。

いろんな素材とひとりひとりの人間の関わり合いで、みんな体当たりで何かを感じ、内側にこもったままではなく、伝えようとしてくれる事、そして先生方も一緒になって時間を共有して下さる事、有り難く思います。

何かをつくったり、カタチにしたりすることは、簡単ではないけど、難しくもないということ。そんな発見を共にみつめていけたらなあ、と思います。共に想いを重ねていく、日々、出会うような気がします。



美濃 花織プロフィール

芸術士在籍期間：2012.4～
専門：イラスト

香川県高松市生まれ
大阪コミュニケーションアート専門学校卒業

幼少時から、絵を描いたりすることで人に伝わる感情や、人と通じ合える事を実感。いろんな色の世界、不思議な形、見えるもの、伝わるキモチ、感じられること、さまざまな感情を通して、絵や絵本作りなどの創作活動をしています。想いは想いのままじゃなく伝えて形を変えていきたいと思っています。そうして、手元にある世界はきつと、ひろがってゆくと思うから。

ココロを解放する時間

川東保育所の時間はおっとり、にぎやかに2年目を迎えました。

ここ、川東保育所では、専門のコーナーを設けて頂き、異年齢の子どもたちがやってきて、一緒に即席遊びをするスタイルが主でした。年度始めの先生方との話し合いでは、みどりのカーテンに絡めたおぼけロード（迷路みたいな遊べる空間づくり）をつくりましようと言う意見もありました。台風がやってきて通り過ぎ、日々園庭に広がる緑や草花にも元気が漲ってみるみるテリトリーが増え、あちこちで生命力を感じる頃、みんなが個々につくったものも自然に溶け合うように保育所に広がり、いつもの保育所の雰囲気にもだいたい変化がありました。

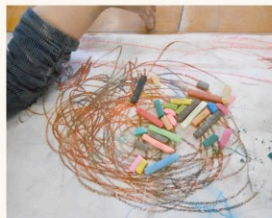
夏、からだ全身を使ってボディペイントをしたり、村井&平川芸術士と一緒にプールでいろんな色の世界の発見を体験したり。ふだんニヒルな表情なSちゃんの爽やかな笑顔が印象的でした。日々のコーナー遊びでは、不思議とその日のみんなのアンテナにあった遊びになっている。

バラバラの想いから広がっていくコト。

好きな色の話になって「(好きな色は)まいにち、かわっていくよ。」とお絵描きと色遊びの時間に大切そうに向き合ってくれる子。なんだかわからないけど、気がつかなかった色が無性に気になったりする。そんなふうに、毎日は、すこしずつだけ変化に奮んでいるんだ。ポトルにつくった色水を見せにきてくれ、プワプワ浮かぶお花をみて「うみのうきわみたい。」と言う子。何描こうかなあと考えていたのち、ひらめいて「みどりのみらい描こー！」と言う子。わたしが描いた絵をみて、「なんか、おんがくみたいやね。」「みのせんせーがハート描いたらもっとおんがくになるよ」と言う子。「せんせーとお母さんとお父さんのかおをかいたよ。」と、やさしさをひとまとめにするようにひとりのキュートなキャラクターを描きあげた子。お盆にみんなでペイントをしていた時、「いいさくひんができよるよ。」とつぶやいて、嬉しそうに微笑む子。ひとりの想いから壮大な想いが膨らむ瞬間。みえない部分をみつけてくれるみんな。こころが動くこと。ハッと、見逃せない瞬間を共に出来る事。

ある日、じぶんだけの絵本をつくることになり、ホッチキスで製本をするようになった。みんなが集まり、芯をじいーっとみつめ、息をのむ。本になった瞬間、「わあっ！」と。嬉々とした表情のみんなをみた時に私自身も感じた、ものづくりの原点。喜びや共に感じ合えること。なにか、迷った時、立ち止まった時、きっと味方になってくれるよ。未来をつむいで。カタチになっても、ならなくても、それぞれ違う想いを認め合える瞬間。その時間を共有出来ることが尊いことなのだと思う。

日々、彼らをつくっていくもの。みんなから湧き出てくるコトバや、表現のカタチは一方通行ではなく、いろんな方向にすむ。そして、ひとりぼっちじゃない想いを繋げて、共に感じ合えるものに一瞬で変化し、共鳴するひとときをつくるように。くみあわせて、かけあわせて、みんなでひろげていくように。みんなと共に感じ合いながら過ごした時間はワクワク感でいっぱいになるような、ココロを解放するようないひとときでした。



いっしょに楽しいをさがす

はじめて保育所に行った時、私は誰よりもドキドキしていたと思います。大人と子どもとか、知っている人と知らない人とか、期待とか不安とか。私が感じていたたくさんの壁に、子どもたちはあっという間に穴をあけてくれました。

飽き性なのかと思ったら、意外なものに興味があって長い間愛でていたり、実は頭の中にいろいろなキャラクターを隠し持っていたり、可愛いくなるコツをたくさん知っていたり、

渋い色が好きだったり、すごい集中力の持ち主だったり…

一日一緒に過ごしている間に、いろんな表情や考え方をを見せてくれる子どもたち。いつも「驚いた!!」や「うれしい!」をいっぱい私にくれます。

たくさんのブツブツ、ちょうちょのビーズ、かわいいテープ、やわらかい毛糸玉、秘密のお手紙、女の子のポニーテール、スケートにスベードの形。

たくさんの好きを刺激し合って、いろんな素材に触れて、気になるものをもっと増やして、一緒に 楽しい! を共有したいと思います。



キラキラの街

何を描こうかな?の相談中、待ちきれずに1人の男の子が水色のスタンプをベタリ。それを見てみんなもいっせいに描き始めます。

たくさんの色のスタンプで四角く囲って「私の家だよ」と言うと、じゃあ私も!と思いきいの家を描きだす。

虹色のおうちの周りには、不思議な生き物の住んでいる池、迷路、宙に浮かんだ二階の部屋、チューリップの花壇、大きなちょうちょうが飛んでいます。いつの間にか、みんなは街を描く事になっていたみたい。

「ここは ぼくが描いたところ!」「ここは わたし!!」

自分たちで作った街並みは、見所がいっぱい!!

子どもたちだけの街はキラキラしていて、とても楽しそうでした。

ちょうちょの行進

ちょうちょのビーズをたくさんあつめて行進が始まる。
 金色ちょうちょは王様ちょうちょ、赤いのは赤ちゃんちょうちょ。
 フェルトのおうちを出発して、大きくなてんとうむしとおしゃべり
 をして、オレンジのお化けにご挨拶。きゅうり畑に寄り道して、
 ちよっとつまみ食い。
 大行進のストーリーを語ってくれる笑顔がうれしい。
 1時間にわたる集中作業、「大仕事だったぜー」とご満悦でした。



マスコットづくり

あさがおの葉っぱから生まれたいかの怪人
 外国のおんなのこ メメちゃん
 とっても強いなその人物 カルフワダ
 ほかにもたくさん、個性的なメンバーが生まれました。

サボテン

割り箸をたくさん刺す
 バランスを見ながらたくさん刺す
 時間をかけて作ったこだわりの作品。



池田 早智プロフィール

芸術士在籍期間：2013.4～
 専門：日本画

1985年
 香川県生まれ
 2004年
 高松工業高等学校美術科卒業
 2008年
 尾道市立尾道大学美術学科卒業

卒業後は香川県でのんびり制作
 活動を続ける。
 活動、発表を通じて芸術士に
 誘ってもらって仲間入り。

きらきら ひらめく

子どもたちはときどき、発明家、作家、モデル、カメラマンや音楽家など、いろんな人に変身します。

作家さんはキラキラした目でいろんな話を聞かせてくれて、モデルは格好いいキメポーズを披露して、音楽家はいろんなところから音を生み出してくれます。発明家はびっくりするようなアイデアをポンポン出します。一緒にあそんでいると「あ～、いいことおもいついた」の声。飛び出したアイデアはどんどんふくらんで、ナイス！！なものから、「えーっ」ってなってしまうモノまで。

大人があきらめてしまう内容も、彼らには実現可能なもの。それはみんなの可能性であり本気なのだと思います。できるかな？どうかかな？とわくわくしているみんなといると、真剣な気持ちに触れたのだと、うれしくなってしまう。

今でも、子どもたちの「あ、いいことおもいついた」が聞こえてくると、私の方がわくわくしてしまいます。みんなのヒラメキがたくさん生まれるような活動をしていけたらと思います。



へんてこが生まれる

みんなであそんだ不思議な生き物づくり。
「これも げいじゅつ？」誰かがぼろっと口にしました。
真剣な表情、気になる素材にふれること、自分のイメージをかたちにすることで、そのかたちがどんどん変化していくこと。
あ、これって もしかして？をたくさん感じてもらえれば。

るぼ！！

いっしょにつくったロボヘッド。かぶるといつもとちよつと違う世界。ちょっとパワーが出てくる感じ。ねえねえ、どう？ どんなかんじ？ 何が見える？ ロボになった子に質問攻め。
 「水族館みたいやし、イルカが見えちゃうかも！」
 「ロボの中から写真撮ったら、どうなるのかなー？」



うふふ

形とりあそびをした日、私のかたちを映してくれました。彼女はなぜか笑いながら顔を描く。青色。ちょっと怖くない？と聞くと「うふふ」爪、なんで黄緑色にしたの？と聞くと「うふふ」ぜんぶ「うふふ」で返されて、もっと知りたくなくなりました。

つくりだす

自分で選んで 自分でつくる。
 みんなの面白いが形になって
 現れる。

スペシャルジュース、
 秘密のスイッチ、
 つんつん頭のネギぼうず

次は何が生まれるんだろう



その道の途上で

子どもたちは、
わたしの予想や持ってきた道具や色々を
全て軽々と、気持ちよく超えていく。

こちらが
「うわ！ カッコいい」と思うものを作っているも
次の瞬間には、なんの迷いもなく壊し、次へと向かう。

その子の中でやり切ると「終わり」となるので
出来上がったものは、時にはゴミにしか見えないかもしれない。
けれど、そこに至るまでに、
彼らはたくさんの工夫をし、発見をし、匂いを嗅ぎ、笑い、触れ、
時には思ったようにいかなくて、泣いて、投げて
そして泣き止んで
もう一度、つくり始める。

結果ではなくて、その道の途上で、
出会うものがたくさんあること
そしてそれが、
とてもかすかな音かもしれないけれど
とても大切な一音を奏でていることを
いつも
その姿の全てでもって
思い出させてくれるのです。



「ねえねえ、みよって！」

2本でフラフープができるという子が現れると
まわりのみんなにも火がつき
その数がどんどん増えていく。
この日の最高は5本。最高の笑顔とともに。
なんでもない朝のはじまりだけれど、なんとも微笑ましく平和。
日々はこんなにもキラキラするのだと
ハッと気づかされるのです。

発見

春 だんごむし
 夏 セミ
 秋 どんぐり、落ち葉
 冬 幼虫、椿の花びら etc

そのとき、そのときの
 世界との遊び。

藤の花が咲き終わり、豆のような長い種を両手に持って
 「もぐらの手袋」

こういう風に世界に触れられる
 彼らがとても うらやましくなる。



旅のなかま

一年間のことを、
 この1ページにおさめることは
 とても難しく
 毎回毎回、たくさんの物語が生まれ
 たくさんの思いがあります。

わたしにとって芸術士とは、
 彼らが出会う発見や創造やお話の
 いろいろに
 つかず離れず寄り添って、
 その瞬間瞬間の
 道と一緒に歩く
 旅の仲間のようなものなのかも
 しれません。

片岡 明日香プロフィール

芸術士在籍期間：2013.4～
 専門：インスタレーション

武蔵野美術大学卒業
 ずっと大切に語り継がれてきた
 物語を布の絵「ひかり絵」に縫
 い込み物語と音楽と共に
 各地で火を灯しながら
 世界とみんなに
 出会う旅を続けています。

物語

子どもたちは
絵を描いたり、色を染めたり、粘土で遊んだり、海をつくったりする
様々な活動の中で
ふと口にする言葉、発見したこと、つくるものや色、笑顔などから
「そんな風に、世界に触れているんだ！」という
新鮮な驚きを
いつも思い出させてくれる。
彼らからは、たった一枚の葉っぱからも、長い長い物語が生まれる。

そうやって世界に遊んで、触れて。
目には見えない、形には残らない
大きくて、とても大らかなことが紡がれていく。
何気ない日々のように、とても大きな物語が
そこにはいつもあることを
思い出させてくれるのです。



あそぶ

色と遊ぶと
いつも
布や紙の上だけでなく
服も顔も手も靴も染めてしまう。
ごめんなさい。
でも、この笑顔。

そして、色と遊んでいるようで
風にパタパタと布をはためかせてみたり、空をのぞいてみたり。
ブルーシートは海になり。
お日さまや風とも一緒に
いつのまにか遊んでいる子どもたち。

静かな時間

「風をつくったよ」
 そういって近づいてきて、
 赤いビニール紐で作った凧をみせてくれた。
 細長い、風の姿のような素敵な凧だった。
 飛ぶところをみせてくれよう
 彼も、凧も、
 一生懸命
 走る。

「好きな食べていいよ」と言われたので
 「メロン」と答えると
 しばらく沈黙。
 「それはゼリーだから・・・。ダメ」
 って。
 彼らの中にはいつも
 確固たる何かがある。

ときどき、そっと
 お話をしにきてくれたり、葉っぱやお花や虫や絵や
 つくったものを見せに来てくれる子どもたちがいる。
 ちょっとした日々の隙間にも、
 彼らの静かな時間が流れている。



「また同じ色がやってきた」

絵の具を混ぜて混ぜて
 ぐちゃぐちゃになり。
 もう一度、絵の具を出したら
 また混ぜて。
 その後に、ある子が発したことは。
 その感性と感覚に、
 いつもドキドキとして
 この瞬間の中にあるけれど、
 目には見えない何かや
 とても面白いことを
 彼らと一緒に探している。
 そんな旅を、共にしている気がするの
 です。

おしゃべりなからだたち

からだで感じてからだで表してくれる。なんだかなんでも笑顔にしゃう天才たち。つむじ風になって走りあい、草の伸びる音でジャンプ！匂い、手触り、肌触り・・・。

目に見えないものや、聞こえない音も発見して伝えてくれる彼ら。

？が！になるとき。半年も前の出来事があるをつたってこれとつながって今ひとつのカタチになったとき。目の前のことに真剣に対峙している瞬間にそこで悦びふるえる彼らのからだ。

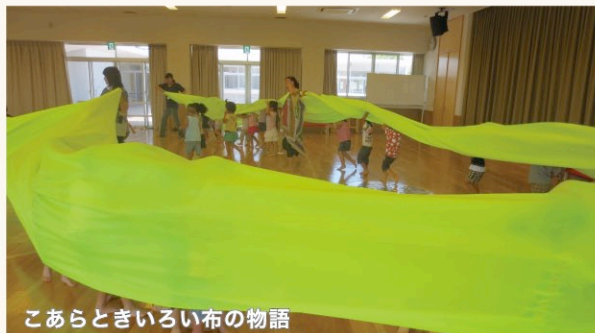
そういう一つ一つ、一瞬一瞬の豊かなエッセンスを見つけて その場で感じてその場でレスポンスする。言葉だけではなく、表情や動き、絵や音楽や造形で、今そこで感じているものを。

充分にからだ全部で味わいつくして コミュニケーションしていくその時間、過程を大切にしています。



からだからだ

からだからだ
子どもたちの日常は
愛と夢と発見にあふれ きらめいている
いつだって奇跡がおこりドラマが生まれる
すてきなみんな きみたちはおひさまだ!!



こあらときいろい布の物語

巻物で大きな大きな布地と出会い
たわむれ
まどい
色がつき
ながめる
1ヶ月の活動のそのあとも先生方が引き続き
忍者劇

運動会のダンス
造形などクラス活動でも使われていった

きいろい布
こあら組さんときいろい布の
物語
時間をかけて
どんどん紡がれていった。



いるか組 およぐからだのカタチどり

今日のプールはオレンジシート。準備運動もブラブラ
 プラ～やザブンを念入りに。オレンジ色の水が入りま～す！
 かっこよく泳ぐ からだのカタチ取り。からだの内側を彩り、
 外側を飾る。風になびかせ空を泳がせる。
 「あ！あそこにオレ泳いでる！」



いるかと青い布

長い長い不織布をもって行って、子どもたちに渡してみました。
 なにこれ！紙？布？なにでできてるん？かしてかして～♪そっち
 持って～。あ、コレはいる人は小さい青を巻かなあかん！風
 になびかせて運んでみたり、巻いてプレゼントになったり、ひっ
 ぱったらブランコになった！園庭で思い思いに青い布の遊びを
 発見するいるか組でした。

プロモーションビデオ

おしゃべりなからだたちを撮りため
 して「いるかプロモーションビデオ」
 をつくりました。全員で30分のビデ
 オをチェック。「かっこいいってう
 より、うちら面白いな！」



カタタ チサトプロフィール

芸術士在籍期間：2013.4～
 専門：身体表現

舞踏とモダンダンスをベースにした
 ダンサー。約20年のキャリアを
 持ち、踊りだすと何でもない空間
 をたちまち異世界に変える存在
 感は、海外でも高い評価を得た。
 DANCE BON BON という屋号で、
 からだってこんな風に見えるんだ！
 からだってこんな風に感じられるん
 だ！と体感できるイベントやワー
 クショップをアーティスト達と共に開
 催している。dancebonbon.com

子どもたちはジャズだ

子どもたちと過ごす時間はいつも予測不可能で、意外なことがいっぱい起きる。みたことない形や色が出てくる。

自由奔放すぎて、ときどきはケガしちゃったり、泣いちゃったり。

子どもたちの勢いに、いつも「負けてる！」って感じます。

でも、こちらを負けていられないから、

そんな子どもたちももっと、どんどん、わくわくわくわくして

予想もつかないような、おもしろいところに連れて行ってくれそうなきっかけをつくることを、考えています。

枠にはめようとしても、おもしろくないし、子どもたちは逃げていく。

みんなには何が見えているのかなあっていつも不思議です。

「こんなんしてみない?」「するする!」「こんなん描いていい?」

こちらのことばに子どもたちが反応する瞬発力ったら。飽きるのも一瞬。

気分が乗らなければ、やらなくてもいい。

でも、気持ちよかったらいつまでもやれてしまう。

決まりのない、終わりのないわくわく。

なんだかジャズみたいだなと思うのです。



あな○のあいた絵

がんばって、一生懸命描きすぎて、いつも画用紙に穴をあけてしまう子がいました。

最初っから、紙に穴があいていたらどうなるんだろう?と考えました。ぽっかり穴のあいた、ちょっと寂しそうな画用紙を、子どもたちは、いろんな色と形と物語で埋めてくれました。

子どもカメラ

子どもたちにカメラを持たせたらどうなるだろう？
外遊びの時間、お絵かきの時間、自由時間、お弁当の時間。
どんどんシャッターを切っていく子どもたち。
一日に200枚を超えることも！
ブレが多いのも、子どもらしくっていいな—と思います。

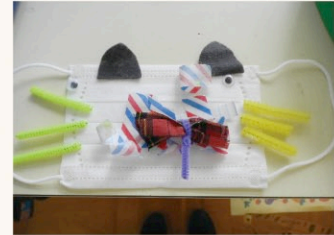


おばけかぼちゃであそぼう

子どもたちより重いかぼちゃに、
みんなでお絵かきして、くりぬいて、飾り付け。
教室を真っ暗にしてもらって、ローソクをいれたら・・・
おばけかぼちゃの完成！！
ぎゃー！！こわい！！こわくない！かわいい！

マスクでへんしん

色んな素材をつかって、マスクをへんしんさせてみよう。
こあら、クリスマス、乙女チック、ひげもじゃ。
マスクをつけたら、自分もへんしんできるよ。



三好 智子プロフィール

芸術士在籍期間：2013.4～
専門：漫画

思いつきと、思い切りを大切に
して活動しています。子どもた
ちと、こんなことしてみたいな、
園にこれを持っていったら、ど
うなるかな？と想像すると、わ
くわくします。思い切りよくや
ることの楽しさは、子どもたち
から教わりました。一人でして
いた妄想が、みんなの力で拡がっ
ていくどきどきは、他ではちょっ
と味わえないなと思っています。

パリコレって知ってる？

コム・デ・ギャルソン、ジョン・ガリアーノ、ルイ・ヴィトン…。
世界で活躍するデザイナーのコレクション映像を流すことから、この活動は始まった。

たぶん、目にするのは初めてのことだろう。

今回は奇抜なもの中心で持っていったが、それを見てこんな世界があって、こんなにもファッションというカテゴリーの中でも自由な捉え方があることを知ってほしいという思いと、ただ単純に子どもたちがどういう反応をするかが楽しみだった。

「モデルさんやで。」「こわい!」「おばけ!」「かわいいのがいい…。」「この黄色いのかわいい。」評判は様々。

みんなが騒ぐ中、一人じっと、画面を見つめる彼。何か私には想像もできないことを感じ取っている途中。

前週の終わりに描いた、自分だけの一着の服。

そのデザイン画が設計図になり、どうすればこれに近づけるのか？

いつもはおとなしい子の、こうした、に付き合う。

今までのもの作りの経験がつながる、生きてくる。

これができるから、こうしたらいいんじゃないか、子どもはそれを知っている。出来上がった子から、ファッションショーに移る。檀紙コレクション 2013 秋冬。カラーBOXを廊下にならべ、ランウェイをつくる。

廊下に椅子をならべ、年中さん、年小さんがお客さん。

自分の思い描いたものを形にし、それを人前で発表する、その一連の流れはとても大切な経験。特に人に見てもらう、発表するということは大人になっても勇気がいったり、尻込みしてしまうことでもある。

私自身もそう。この経験が少しでも子どもたちの自信のきっかけになればと願う。何より私がいちばん教えてもらっている。

大人も子どもも、園全体を巻き込んで楽しんでいた。



おおきなおおきなふね

運動会にむけて、みんなが乗り込む船の絵を描いた。午前中で園児が帰った日に、6Mの大きな布に、先生方と船の絵の下書きをした。後日、子どもたちと着色をする。ふねの歌を歌いながら、みんなで描いたふねは、みんなの足跡がたくさんついた、演技の中で「嵐にあう」という様子にびったりあった、すてきなものになった。このふねを背景にして、イメージを膨らませて力いっぱい演技をしたこと、とてもうれしかった。



自然発生的活動。

生活発表会にむけての大道具制作をしていたところ、自然と手伝ってくれる子が現れます。「みんな外で遊んでるよ。」「ふたりでゆっくりつくればいいやん。」彼はそういいました。子どもに教わることは多い。そうしているうちに、興味を示す子がだんだんと増えてくる。余った段ボールで、自然と「自分の家作り」がはじまった。友だちの家と家をひっつける。犬の家もできた。狭い家の中に入って遊ぶ。どんどん拡大し、遊戯室に移動。その遊びは次週まで続いていて、彼らのプライベートスペースが完成されていた。

ある日の活動終了後、退園前。私が持っていた素材に興味を示し、突然紙コップに絵を描く。わたしも、わたしも。お気に入りの実を入れる。こうして意図せず始まった活動が、いきいきとおもしろい。

なにかをあきらめていませんか？

アパレル業界を途中リタイアし、途方に暮れていた自分。自分に何ができるのか。限界を勝手に作り上げている自分が今いた。この活動を通して一番得たことは、自分の変化かもしれない。子どもは何もかも初めてのことばかりで「わからない」ことだらけだと思う。自分もそうだ。上手くできること、上手く描かせることが大事な事ではない。初めてのことをやってみること、好奇心を持つこと。そうすれば意外にできるから。この活動では数字やデータで表せないこと、答えは決して一つでは無いことを大切にしている。目に見えない変化かもしれないけど、子どもたちは、まだまだ未熟でこの小さな人間を変えてくれた気がする。お互い、小さな人間として、いっしょに成長していきたいと思う。

平川 めぐみプロフィール

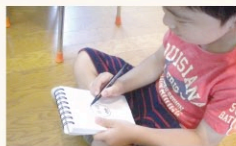
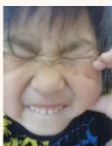
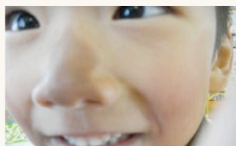
芸術士在籍期間：2013.4～
専門：ファッションデザイン

1985 香川県高松市生まれ
2003 高松商業高等学校商業科卒業
2006 上田女子服飾専門学校ファッションクリエイター学科卒業
大阪の小さな企画提案型メーカーにて企画営業を務めたのち、東京に上京、ヤングからミセスまで数々のブランドに携わる。2011 帰郷。ファッションへの夢を捨てきれず現在に至る。
新しい洋服に袖を通すときの、ドキドキワクワクをいろいろな年代の方に伝えていきたい。

1対1のひみつ

ひまわり組の とても優しい紳士 淑女たち…
ふだんの時とは違う顔を見せてくれます

- ・びんちゃん僕が持つよ 重いやいよいよよというのに 大丈夫って二階まで持ってってくれる
- ・主張が強い男の子 困った！と 悩んでいると心配顔で覗き込み 僕になんでも言うて…とやさしく教えてくれた
- ・今日かわいいよ と 褒め上手 まつ毛に興味があり 触ると匂って来た。いい香りなんだそう
- ・玉ねぎ苦手で びんちゃんいつも給食最後だったんだよでも嫌いだけど頑張ってたと話すとすし食べられるようになる
- ・二人で手をつないで青空の見たあと 僕 あの時の風描いたよって見せてくれた
- ・先に こっち座ってと 椅子を運んでくる
あっ そこ 汚れるよとエスコート 髪についてたゴミを取ってくれた
そんな時が流れる中 夏休みが過ぎ 二学期に…



びんちゃんだよ。仲良くしてね

入園した芸術士 私はふわふわクッションです。
完成を目的とせず あくまでも大切なのは その過程。
大人の視点を押し付けない 一緒に悩む…そんな接し方で時間を共有する。
そしててるてる坊主を作ってみた。シャボン玉で 色や つかんがあ〜
ぶくぶく泡をたてる。どうしょ？ もう少し絵の具 足してみよか？
うわっ！ ふわふわのてるてる坊主が出来たあ〜と 喜んでた。



錆びてるぞ～～！

車に絵を描いてみる そんな子どもの頃からの願いが叶ったひととき 笑顔でつまれる ケンカもおきなかった幼稚園の時 こんなことしたなあ と あたまの片隅に何かが残ればと願っていた私
目線は子どもより下 そんな私が居ることであの子たちが少しでも安らぐ様 活動している
そのままの彼女 ありのままの彼らでいてほしい。自分をどこまで出せているか わがままとは違うみんなに相對した
そして子どもたちの事をみまもり 一緒に困り 好きになる
氣遣って見つめて手をつなぐ あなた方のキラキラお目目にありがとうを伝えたい。ニコニコ顔にこっちが助けてもらった
できないことはないよ。 ちょっとずつでいいんだから そんなゆったりとした時を過ごし 考える を共有した 私は貴方たちの
影になりたい いっぱい いっぱいみんなが輝きますように
個性は出会いで変わるはず。驚きを みんなからもらったら 言葉を沢山プレゼントしてこれからを過ごす
元氣なみんなが大好きです ぎゅっぎゅきゅ～～っ ハグっ (抱)

ある 秋の日

ゆり組 もも組に一台の車がやってきた
ほんまに描いていいのぉ？
大喜び、ほとばしる笑顔。
片手にクレヨン握りしめ描いた絵は
ほら 僕とびんちゃん並んでる…だった。
そして登り始める幼児たち
こども描いていいの～？ボンネットふわ
ふわするよ おとっとと。
お日様にあたって車にクレヨンが熱で
とろとろする感覚を味わっていた。
そして宣言する。
自分で上がったらおりるんや。
だいじょうぶ？
お互い気づかい譲り合う姿があった。
青空にクレヨンでドロドロになったおしり
りが映えていた。

松尾 由美プロフィール

芸術士在籍期間：2013.4～

専門：洋画

香川県さぬき市生まれ 高松市内で育つ。光り 風 香りを感じながら 絵の楽しさをさぬきの山々をとおして描く。現在 公募団体 新協美術審査委員として油絵に携わっている。今年度から希望だった芸術士に…。幼少の頃、楽しい時間を共有してくれていた絵の先生の記憶をたどり 芸術士活動中。子どもたちの素直な絵が私のお手本となっている。こんな出会いが 私の描く空の色をかえた。ただいま100号キャンバスに向かっています。

子どもたちにメッセージを

言葉は時として宝物になる

それがあるからこそ大人のふりをして生きている私。どれだけ子どもたちと『今』を共有するか…

ちょっとだけ先に生まれた者が芸術士として身を変え 言葉を渡し 彼らと『今』を積み重ねる



ほれぼれ

ぼく絵描くんすかんの と最初打ち明けてくれた子がいる。彼の描く絵はとても素直でやさしい。何でだろう？私はこの絵大好きだよって伝えていた。7月になり水族館作りへと。彼がにこにこカジキマグロを描いてる。群れになって家族なんだそう。描いた魚を切り取り ほれぼれ。じーっと見つめている。いいね～の言葉に照れ笑い。最初の悩みはどこへやら…自由時間もかわい絵を描いて見せてくれる様になった。こんな嬉しさを味わえた初夏。

廃車

秋も深まるころ 保育園に来た 車の ひろっぺ
香川トヨベットの御厚意だ
なにしてもいいよ 子どもたちに任せた。
お日様もみかたにし 光あたりよるとこ すざいけんこっち来てん。
行くと 顔がすれずれ車と並行 錆のデコボコがつるつるお化粧したよ。
出会ったかたちが 色も周りも やさしく運んでいるようだった。
作品づくりを通して思いやりが出来たらと常々思っている私
ひろっぺ もうすぐ帰るよの言葉にお迎え来るん？
どうやって帰るん さみしないかな？ じゃ 友だち作るうか…
みなれた素材で制作し それを雨の中ひるっぺまで届ける。
これでさみしくないかな こんな『今』をつなぎながら
彼ら彼女たちの心に住めたらとひそかに願っている 私の言葉が心に
ひびき宝物になりますようにと。そして誇りをもって これからを
生きて欲しい。
だいじょうぶだよ～ そのまんまが好きだから・・・
私は ずっと見ているよ

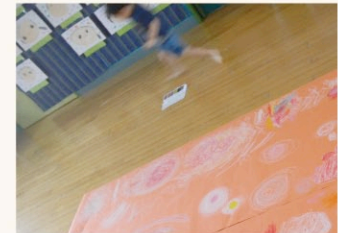


椅子

ある日 見かけた『今』 外の古い椅子を 針と糸で繕っている先生
 こんなにも大切に物を使っている保育園なんだ きっと 子どもたちも何かしてくれるはず！
 椅子に名前を〈キャサリン〉と付け 3 歳児～5 歳児で リフォームしてみることに
 キャサリンを通して思い が 伝わる
 こんなになってたんや… 長いこと えらかったなキャサリン こここそばいんちゃらん？
 時を通して距離が縮まる アンテナを出し 感じてみる
 おとなしい子も ニコニコ 絶対喜ぶびよるわ 笑顔と 言葉を渡すひととき
 新生キャサリン 誕生
 『今』が『これから』にかわる瞬間を味わった
 今も園の片隅で キャサリンはみんなを見ている

出来た 描けた わーいわい

茜雲を描こう で 最後まで外にも
 行かず描き続けていた彼
 合点が行くまで制作
 描き終わった後暫く見つめ
 絵の周りを走り出してた
 わーいわい 大きい出来た



いろいろな子のいろいろな物語

香西保育所では毎週 1 回 1 クラスごと回っていきます。1 歳児さんから 5 歳児さんまで 9 クラスに行かせて頂きました。どのクラスの子も活動に積極的に参加してくれ、たくさん子どもたちと接する事ができました。

「せんせい、これみて!」「こんなんできた!」と教えてくれる顔はキラキラしていて、「すごいやん!」「面白いな〜!」と言葉を返すとニコニコ、ニヤニヤの恥ずかしそうな顔。そしてまた自分の物づくりの世界へ。

子どもたちから作り出されるものは、それぞれの物語になっていて、自分と会話しながら、どんどんつくるものが変化していく。「なにつくりよん?」と聞くと「これこうなってるんで」と一生懸命教えてくれたものは、その子だけの大切な物語。

気づかせてくれたこと。

年中さんで「青色と黄色を足したら緑になるよ」と赤・青・黄 3 原色の色の混ぜ方での説明した後の質問。

「きいろはなにいろとなにいろのできるん?」

年少さんと一緒にお昼を食べていたときの質問。

「今日は寒いから雪になるかもよ」と私。窓の外を見る子どもたち。その日は晴れて風が強い日で窓からは雲がどんどん流れていくのが見えました。

「そとがうごっきよる。なんで、うごっきよん?」

「あれは雲が動いとるんよ。風が強いから雲が流れていってるんよ。」

「くもはどこにいくん?」

黄色はどうやったら黄色になるんだろう・・・雲はどこにってしまうのだから・・・当たり前だと思っていてそんなこと考えた事もなかった。いや、自分も小さい頃は考えていたのかもしれない。大人になるにつれ答えを知らないままフタをしてしまった小さな疑問。そんな自分の中のフタの存在を子どもたちは教えてくれました。



絵具遊び。絵具の感触と色づくり。

1. 絵具でスタンプあそび。
2. 「みて〜!」
3. 丸い球体に絵具をつけてゴロゴロ。
4. 自画像の粘土に自分で作った肌色を塗って。目入れは真剣に。
5. 大きい布に夢中で描くキリン。



1



3



4



6



2



5



7



8



10



11



9



12

1. 布遊び。体ごと遊ぶ
2. 新聞紙で作った巨大エアドーム
3. 洗濯バサミ遊び
「せんせい、これははなびなんだ」
4. 透明の世界
5. プチプチに描いた大きい太陽
6. 虫眼鏡で。どんなふうに見える？
7. ハロウィンのおばけづくり
「こっちをおすとやさしくなって、
こっちをおすとこわくなるんで」
8. 自分のお面でダンス
9. 落ち葉で作ったお顔
10. お絵描きしたプチプチをプールに
持って行って遊ぶ
11. 新聞紙のベッド。二人の世界
12. 廃材を使って家づくり
「ここにブランコがあってな、
ここはせんたくものほすところやで」

松野 礼子プロフィール

芸術士在籍期間：2013.4～
専門：絵画

京都芸術短期大学卒業。
卒業後は、デザイン事務所や印刷会社で勤務する傍ら、絵を描き個展・グループ展などを行う日々を送る。
心に残った風景や見てみたい景色・空模様・太陽などをアクリル絵具とクレヨンを使い描いています。

日常の中の非日常

川添保育園では主にふじ組さん(年長)で週1回活動を行っています。いろいろなこと、いろいろな素材を体験してほしい。そんな思いから平面・立体・個人制作・共同制作・素材遊びなどを行いました。日常生活の中の非日常を意識して行った活動では、白いロールの布を使って自由遊び。自作の3D眼鏡をかけたままでおやつにお遊戯の練習。教室に張り巡らせた平ゴム。教室のどこでも貼って大丈夫なテープ。黒いビニール袋で作ったドームの中には蓄光シールで星空を。いつもの教室もちょっと何かが入るだけで違って見える。その時、子どもたちの夢中で楽しむ顔がありました。非日常の世界が日常の生活に溶け込み、子どもたちの中に入って形を変えて出ていく。

テープ遊びの時、足にテープをぐるぐる巻いて「ちょこちょこせいじんやで」とちょこちょこ歩いていた男の子。その1週間後の絵具遊びの時間に点々をいっぱい描いていました。「なに描きよん?」と聞くと「ちょこちょこせいじんのあしあとやで」と広がっていく足跡。「ちょこちょこせいじんがあるくと、みどりがいっぱいになるん」とどんどん物語になっていく。1週間、彼の中にいたちょこちょこ星人が膨らんで物語になっている。

どこで、どんな出来事が、何につながって、何になるか。それは全く未知のもの。子どもたちが今感じられる感覚や感触をいっぱい味わって欲しいと思います。



架空人物の制作。プロフィールも作りました。

- 名前・性別・年齢・住んでいる場所・趣味など子どもたちの考えた人々。
1. イベルタ/女/20歳/ハワイ/海で泳ぐ、焼き肉好き
 2. アリキス・ゴッド/男/5歳/イギリス/ぶどう、トマト、サッカー
 3. ひがしやま あんな/女/8歳/香川/鉄棒、イチゴ、スイカ
 4. ひがみさき/女/50歳/沖縄/食べること、バスケットボール



1



3



4



5



2



6



7



8



9



11



10



12

1. 廃材を使用して作るうの日。長くつなぎ合わせてラッパ。
2. 虫眼鏡で友だちを見る。ズーム。
3. 絵の具で自由に描く活動。絵の具を飛ばして遊んでいたと思っていたら、星空を作っていた。
- 4.ダンボールで家づくり。窓から顔を出して。どんな景色？
5. 布遊び。みんな引っ張ってくれるのを待っている。
6. 自作の3D眼鏡でお遊戯の練習。いつもの顔と違って見える。
7. 扇風機で風を入れて膨らんだ星空ドーム。中に入った友だちを見る。
8. はじめてのパステル。手が汚れても全然平気。
9. 部屋に張った平ゴムを使ってゲームが始まった。
10. テープ遊び。部屋のどこに貼ってもいいよの日。机は秘密基地になりました。「いま、こうじちゅうで」
11. ちょこちょこ皇人の物語。歩いて緑がどんどん増えているところ。
12. 自画像作成。自分のほくろの位置も描いた。

芸術活動を通して個性や人格が尊重される 子どもの存在を肯定的に、そのままを受けとめてくれるからです。私たちの保育所の理念「みんなちがってみんないい(子ども一人ひとりのそのままを認め、大切に、自分の存在価値を受け入れることができる人に育てほしい。)」に、ぴったり合い、私たち保育士も芸術士さんからたくさんのごことを学ばせてもらっています。(西光寺保育所)

異次元からのアプローチで未知の能力を開花させる活動 陽だまりの縁側でまったりと。大好きなおばあちゃんのおひざに座って。そんな雰囲気の中で、ドラえもののポケットから出てきたような、素材や、アイデア、アプローチで、子どもたちは、楽しさと、自己肯定感を感じています。保育士は、刺激を受けたり、共に悩み、アドバイスをもらって、またひとつ、子どもたちに新鮮な魅力を感じることができています。(こぶし花園保育園)

発見 いろんな素材を使って、切ったり貼ったり描いたりくっつけたり…こんなものでも表現ができるんだ、こんなふうにも表現できるんだと目からウロコの日々です。また、普段の保育の中では見られない子どものあらたな一面を発見する機会にもなっています。上手や下手ではなく、感じたままに楽しんで表現するすばらしさを教えていただき感謝です。(カナン十河保育園)

わくわくが一杯 「うわーできた!!みてー」と歓声をあげる子や「こうやってやりたいのになかなかできんや・・・」と困った顔をしながらも真剣にとりくむ子など、どの子も芸術士さんとの活動を通して、おもいきり表現遊びができることを、わくわくしながら楽しんでます(西春日保育所)

驚きと喜びの連続 驚き+喜び=∞楽しさ∞ 芸術士の方に、普段の保育ではなかなか用意できない様々な素材(枝等の自然物をはじめ、弁当用のプラスチックケース、紙粘土、ビーズなど)を、大量に用意していただき子どもたちは伸び伸びと自由に制作を楽しみました。また、子どもたちの豊かな発想をありのまま受け止めてくれたり、素材の使い方を教えてくれたりする中で、作ることに楽しさや喜び、先生のアイデアに対する驚きを子どもたちと一緒に感じています。作品展では、共同制作として、全園児で紙粘土を使ったチョコレートケーキ作りをしました。ケーキの周りは個人の作品も展示し、とても素敵な作品となりました。(塩江こども園)

豊か 一人一人の発想やアイデアを、常に丸ごと受け止めたり認めたりしてくださったことが、子どもたちの意欲や自信につながっていた。芸術士の方との触れ合いを通して、子どもたちの生活が広がったり、内面(心)の豊かさにもつながったりしていた。(木太幼稚園)

音 ヤクルトや廃材の筒が笛になったり椅子やボウルなど身近な物が楽器に変身!固定観念にとらわれず、子どもたちが全身を使って音を楽しんだり表現するおもしろさを味わいました。子どもの発想やつぶやきを大切に受け止め、遊びに転換するアイデアマンです。(国分寺北部保育所)

パフォーマー・ムー先生とエンジョイタイム! 大好きなムー先生と、初めて見る民俗楽器の音に耳を澄ませたり、実際に触れてみたり、と五感を使って楽しみました。いろいろな音楽が聴こえてくると、わくわく♪どきどき♪さあ、ステージの始まりです!心と体を発散させ、めいっぱい楽しめます!(松島保育所)

味覚 物事の見方に趣をもたせ、その先のひらめき、柔軟な発想にいろいろなスパイスを加えることで、より深く豊かなものになることを示唆してくれる。常に研ぎ澄まされた感覚であれと、全ての人に喚起してくれているようだ。(今里保育所)

再発見の時間 いつも子どもたちから「うわー」と声があがる様な材料・題材を用意して下さり、私たちもワクワクして早く活動したくなります。普段の保育の中ではうまく表現できない子どもたちに対して、専門的な立場からの言葉かけや素材の使い方などを見聞きすることで、私たちも「こんな風に自由に子どもたちの気持ちを出させることが出来るんだな・・・」と再発見できる時間になっています。一年を通して子どもたちが好きなものや色などをはっきりと言えるようになり、生活の中に彩りが増えてきている事を感じます。(敬愛保育園)

出会い 毎週心待ちにしている子どもたちです。子どもたちは、いろいろな素材やワクワクドキドキする活動と出会い、おもしろい世界に自然に引き込まれていきます。たくさん素材と接することでどんどん自分の世界も広がっていく、魅力あふれる『出会い』をこれからも子どもたちと一緒に楽しみたいと思います。(下笠居西部保育所)

心がわくわくする時間 素材に触れて作る喜び、楽しさ、おもしろさが子どもたちの心を動かし、もっと触れてみたい、作ってみようという更なる活動への源になっています。芸術士さんとの活動は楽しく、子どもたちが得た様々な感情は、いきいきとした子どもたちの未来へとつながっているようです。(すみれ保育園)

子どもは無限∞ 現在の活動の中心は“えがく(描く)こと”その時の思いを無心で、且つ指先の赴くまま描き進めている様子です。描き終えた時には達成感・充足感が溢れて、この気持ちが次の活動へと繋がっています。子どもが作り出す作品はみんな笑顔に。次にも期待…(城東保育園)

みんな 笑顔 永島先生が来るのを楽しみにしている子どもたち。どの子も全身を使って、楽しんで制作に取り組んでいる。先生もビックリするほど柔軟なアイデア、子どもに任せる自由な作品!!一人ひとりが「いいねー!!」とほめてもらって、子どもたちもニコリ。クラスみんなが、笑顔になれる素敵なお水曜日です☆(若葉保育園)

子どもたちの大切な時間 毎週火曜日、美濃先生がやってきます。2年目ということで、園や子どもたちの雰囲気や理解しての活動ができました。2～5歳児の各クラス、3～5歳児で編成されている異年齢グループ、時には他の芸術士さんを交えての活動など様々な経験をしました。幅広い素材や奥深い色の絵の具を使っての活動は、“子どもたちのやりたい気持ち”を更に盛り上げました。大好きなボディペインティングでは、まず5歳児がダイナミックに、それに4歳児が続き、最初は控えめだった3歳児、2歳児も徐々に大胆に・・・、どの子も満足できたという表情が感動的でした。美濃先生との時間は、創作活動に幅を持たせてくれるだけでなく、子どもたちが心を解放できる大切な時間になっています。(みのり保育園)

心にひびく芸術マジック 子どもたちの心に友達のように寄り添い、芸術性を大切に、作品づくりの過程や作品に共感し、保育士とはちがう目線で子どもたちを受け止め、心の声をこぼにし、芸術意欲を高めてくれる。(川東保育所)

わくわく♪「今日はね、こんなものを用意してみました♡」・・・池田先生のカバンは、ドラえもんのお宝ポケットです。キラキラやフワフワやベタベタや・・・子どもたちにとって魅力的なものが次々に出てきます。一緒に並べて準備をするのも、子どもたちにとっては楽しいひととき。「何を作ろうかな～」わくわくタイムの始まりです。(大野東保育所)

ワクワク感“こんなものを作る”と型にはまることなく、身近にある素材、自然素材、保育所ではなかなか触れることのできない素材などを子どもの好きなように作れるようにし、ワクワクする楽しい気持ちを引き出しながら活動をしてくださっています。だからいつも先生のまわりには“今日は何をするのかな”という笑顔の子どもたちが集まっています。(国分寺南部保育所)

ボカボカの陽だまり 片岡先生のそばにただで、子どもたちの心がほぐれていくのです。陽だまりの中で気持ちよくなって手足をぐーんと伸ばすように、心も体も解放されて“自分らしさ”を発揮し始めます。感謝♪感謝♪です。(木太保育所)

刺激～ひろがる・つながる～ 子どもたちは新しい素材に出会い、じっくりと触れて遊ぶことをとても楽しみにしており、子どもの心を刺激するおもしろい活動ばかりだった。刺激的な活動を通して、遊びが広がったり、友達とつながったりすることができた。(浅野幼稚園)

Sensational 刺激的。芸術士さんとの活動やかかわりが刺激となることで、子どもたちの表現がより引き出され、自ら環境にかかわっていく原動力がうまれている。躍動!柔軟!独創力!など大人にとっても想像を超えるものでたくさんの刺激をもらっている。(香南こども園)

ほっこり 初めは緊張気味だった子どもたちも、三好先生と一緒に遊びや表現等の活動をする中で、徐々に打ち解け、自分から声を掛けたり、くっついったりして触れ合いを楽しみようになってきました。三好先生の心温まるかかわりを、子どもたちは心地よく感じているようです。一緒に描いたり作ったりする中で「素敵に仕上がったね」「かっこいいね」「丁寧に描いたね」と受け止められることが子どもたちの伸び伸びとした表現につながっているように思います。(三溪幼稚園)

刺激的!! 2年続けて芸術士さんとの出会いがあり、子どもたちも期待でいっぱいでした。様々な生地や素材を活用した服飾系の活動は今年ならではの、生活や遊びの流れを大切に話し合いながら、貴重な体験を平川先生と一緒に楽しめたことに感謝の気持ちでいっぱいです。(檀紙幼稚園)

みんな芸術家 芸術士活動がある日は、幼稚園のいろいろなところから「びんちゃん!」と子どもたちの声が響きます。子どもたちの思いやつづきやきをすべて受け止め、ダイナミックに表現することの楽しさを味わわせてくれるびんちゃんとの時間が、子どもたちは大好きです。「すごいね」「それでいいんだよ」というびんちゃんの言葉が、子どもたちを小さな芸術家に変身させてくれました。(大野幼稚園)

もう一つの子育て支援 廃棄寸前のソファەر、見る見る“癒しのソファەر”に生まれ変わり、錆ついた廃車が、格好のキャンパスとなり芸術作品に変身。斬新な発想に様々な材料と技法、全てのものに命を感じていく感性で、子どもたちの望ましい育ちを支えて貫っていることを日々実感しています(和光保育園)

わくわく!キドキ!新発見!! 普段は触れる機会のない素材を提供してくれました。その中で専門的な視点からヒントやアイデアを出してくれたり、子どもへの言葉かけをしてくれたことで、子どもたちが目を輝かせ活動に夢中に参加する姿はとても嬉しく感じました。創造する楽しさや喜びを感じた時間でした。(香西保育所)

内なる力を発揮する 芸術士活動を通して様々な材料や素材を使って活動していくうちに製作や絵画が得意な子ども、苦手な子どももみんなが作ることや描くことを好きになったことで、今まで内に秘めていた大人では思い浮かべないようなアイデアを一人ひとりが出せるようになり、より自由な発想で表現できるようになりました。(川添保育園)

松島保育所	村井知之 / パフォーマンス
木太保育所	北村きよ / 立体造形
下笠居西部保育所	阿部麻海 / 彫刻・漆
香西保育所	谷 由貴 / 染織・美術家アシスタント
塩江こども園	樫本美千子 / 日本画
香南こども園	永島香苗 / 油絵・立体
大野東保育所	白澤知里 / 人形劇・パフォーマンス
川東保育所	美濃花織 / イラスト
国分寺北部保育所	池田早智 / 日本画
国分寺南部保育所	片岡明日香 / インスタレーション
敬愛保育園	カタタチサト / 身体表現
西春日保育所	平川めぐみ / ファッションデザイン
西光寺保育所	松尾由美 / 洋画
川添保育園	松野礼子 / 絵画
和光保育園	三好智子 / 漫画
若葉保育園	太田絵美子 / 総括
すみれ保育園	
今里保育所	計 16 名
みのり保育園	
城東保育園	
こぶし花園保育園	
カナン十河保育園	
三溪幼稚園	
檀紙幼稚園	
木太幼稚園	
大野幼稚園	
浅野幼稚園	

計 27 か所

発行日 2014年3月24日
 発行所 高松市健康福祉局 こども未来部こども園運営課
 〒760-8571
 香川県高松市番町1丁目8-15
 TEL087-839-2358
 FAX087-839-2360
 NPO 法人アーキペラゴ 芸術士事務局
 〒760-0024
 香川県高松市兵庫町3-10
 TEL087-811-7707
 FAX087-813-1002
 HP <http://geijyutsushi.archipelago.or.jp/>

制作 芸術士
 編集 太田絵美子、松野礼子
 印刷・製法 アイコー印刷

本書記載の写真・文章等の無断使用を禁じます。